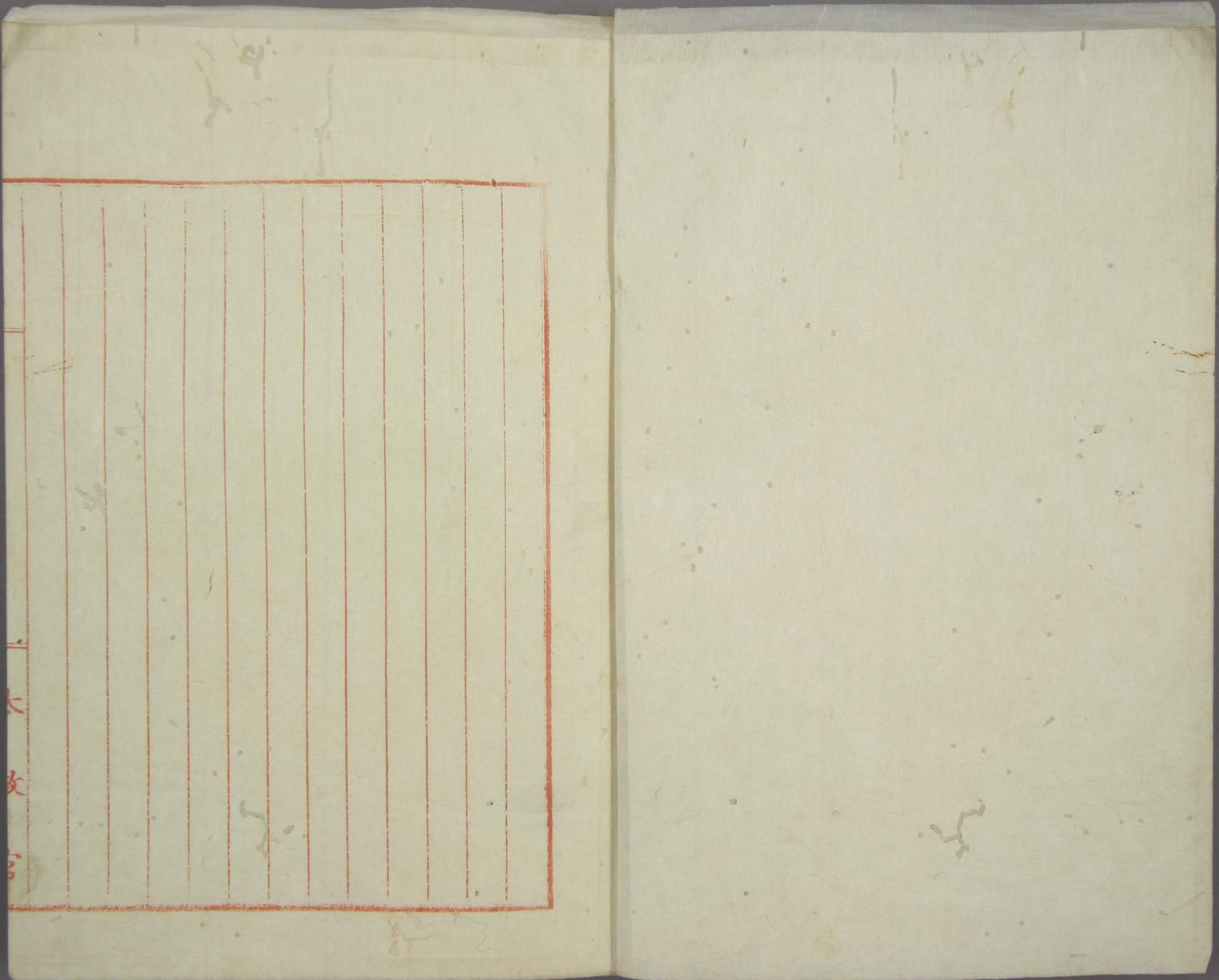


千八百七十七年五月
 下儀園
 向銀士
 場
 點視記

830
A4452

五
一
五





大
教
宮

114
A4457



千八百七十七年五月下總ノ國開墾場点視ノ記

勸農司副長官ノ恩許ヲ蒙リ予ハ下總ノ國ナル官有開

墾場一見ノ為ノ去ル四月廿日ヲ以テ東京ヲ出發シ翌

五月二日ノ午前早クモ該地ニ到着セシカバ先ツ取敢

ズ同所開墾場ノ長官若山氏ニ面會シ其來意ヲ通セシ

ニ同氏予ヲ延升テ其家ニ至リ款待頗ル懇切ヲ盡サレ

次テ牧地概圖穀倉等ニ至ルマテ一々案内ヲ以テ示サ

レタリ儲予ガ最初ノ日ニ歴覽セシハ僅カニ外國種ノ

馬ヲ牧畜スル所ノ一部ニ止リシガ中ニ就テ此頃米國

ヨリ輸入セシ最良ノ種馬アルヲ見タリ總シテ場内何

處ニモ美麗廣潤ナル新築ノ馬車道アリテ長クハ英里

ニ亘リ其間之ヲ幾部ニモ區別シ每部大小ノ糾草堤ヲ

以テ圍繞ス其糾草ノ設法能ク整々片塊ノ大々皆一様

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

ニシテ彼レ是レ順ヲ逐テ植付タルハ高サ四五尺乃至六尺ナル
堤防ノ金字形ヲ壞サシテシテ又之ヲ以テ勤
物ノ自由ニ区内ニ出入スルヲ防クニ供スルモノト見
ヘタリ是等ノ堤防ヲ結構スル費用ノ如キハ自カラ其
大小ニ因テ差等アル事ナレド概テ最高ナルモノニシ
テ十間(漢ノ六十)毎ニ三圓其餘ハ二圓五拾銭乃至壹圓
九拾銭ヲ以テ成就スベク凡ソ此地ニ築造セシ長サハ
十五英里許ナリト云總体ノ看察ヲ下スニ是等ノ土堤
ハ頗フル堅固ニシテ今ヨリ二百年前徳川氏ノ時世ニ
築造セシ者ト恰モ能ク類似シ往昔始メテ結構セシ時
ハ必定如此クアリシナラント回想スル程ナレハ容易
ニ破壊セザルベシト見ヘタリ
次ノ日即チ三日ニハ予又性テ生徒ノ修業場ヲ一見ス

此所ハ糸耜荷車其他當場ニ用エル一切ノ農具ヲ製造
シ并ニ修理スル工場ニシテ予ハ則チ此所ノ役所ニ於
テ半時間バカリニ此記録ニ載スベキ諸ノ要件ヲ大方
集録セリ蓋シ此所ニテ兼知シタル當場ノ計算記録ノ
如キハ最モ正確ヲ失ハス當ニ岩山氏ノ語談ニ就テ其
創業ヲ贊美スルノ語ヲ為スヨリ遙カニ其當ヲ得タリ
ト思ハル則チ此所ニテ取調ヘタル始末書ハ悉皆別紙
甲乙ノ表中ニ詳カナリ(別紙第一第二)斯クテ又予ハ二
十三「イン」糸耜ノ用法ヲ檢閲セリ此器械ハジョーンス
氏ノ助役タルドクトルラサムノ月論見ニ依リジョーンス
氏ノ監督ヲ受テ途頃當場ニ於テ製作セシモノニシテ
固ト荒蕪ノ土地ヲ鋤ク速スガ為メニ用ユル器械(別紙
表中第三頁見)ナリ右等ノ事終テ午後三時予ハ岩山氏
解業五ヲ見(別紙)

及ヒ其他ノ官吏ニ別テ告ケ直ニ帰送ニ就キ翌四日ニ
於テ東京ニ帰着セリ
諸予ハ右倉卒ナル檢閲ノ間ノ始末書ヲ縷述セントス
ルニ付テハ預テ当開墾場ノ起業并ニ成績ノ始末書ヲ
岩山氏ヨリ送付セラルベキ筈ナリシニ其レヲモ合
セテ記載スル心得ナリシガ豈固ラレヤ右ノ書類予ガ
手ニ達セザルヲ以テ此ニ暫ク予ガ實見セシ形況ノミ
ヲ畧説セントス勿論之ヲ記述スルニハ自カラ種々ノ
事情ノ其間ニ起ルアルガ故依リニ其餘同ヲ七條ニ
分メテ陳述セントス其別左ノ如シ
第一條 千八百七十五年間ニ於ケル總會計ノ事
附 開墾場創業ノ時ヨリ昨年十一月ニ至ル
諸出金及ビ入金ノ事

第二條 開墾場ニ於テ荒田築園ノ事

附 同所ニ在ル役夫ト畜類トヲ養フベキ食物ヲ
作ル事

第三條 作工ノ事

第四條 當場有用ノ農具製作ノ事

第五條 場内建物ノ事

第六條 現今當場ニ於テ農業ヲ研究シ且殊ニ綿羊牧
畜法ニ從事スル諸縣ノ少年生ノ事

第七條 一般ノ見解

○ 第一條

千八百七十五年間ニ於ケル總會計ノ事

附 開墾場創業ノ時ヨリ昨年十一月ニ至ル諸

・ 出金及々入金ノ事

諸出入計算ハ千八百一十五年五月下總國開墾場設立ノ議ヲ決スルノ前粗預定セシ所ニシテ其初度ノ會計ハ果シテ預算ノ雛形ニ符合セシガ故ニ同年ノ始メニ於テジョーンズ氏ヨリ之ヲ予ニ送ラレタリキ此時ニ當テヤ日本ニ於テ綿羊ヲ牧畜セシトスル諸人ノ目論見ハ殆ト皆画餅ニ属セシガ如シ(大隈重信公閣下ニ呈セテ八月十日附附三節ニ詳カキ書中)勿論夫ノ内藤新宿ノ試験場ニ於テハ預テ舶来ノ綿羊數頭ヲ養フト虽氏之レハ是レ恰モ動物園中ニ飼畜スル者ト一般ニシテ且此他ノ風土ニ適シタル動物ヨリハ違カニ綿密ナル注意ヲ與ヘテ斯ク生育スル者ナレハ強ク此所ニ施セル方法ヲ以テ廣ク實際ノ功ヲ奏スベキ模範ト為スニ足ラサ

ルハ誰レモ覚悟スル所ニシテジョーンズ氏モ亦當テ之ヲ予ニ談セシ所ナリ去レ氏當時此事ノ評說様々ナリシカ為メニ預テ是等ノ動物ヲ日本ニ買入レ廣ク試験ヲ行フノ可ナル事ヲ考フル人々モ(綿羊牧畜ハ概カニ付テハ八百七十三年ノ頃頒布セラレシト思ハレタリ予カ綿羊ノ事ニ付始メテ覚書ヲ呈セシト實ニ千八百七十三年九月中)實ハ利純相場ノ強引ニ暗キヨリシテ自カヲ獎勵ノ念ヲ落サハルニ非ス殊ニ世ニ聞ヘタル人々(開拓使菅長如キ是レナリ)ニシテ綿羊ハ國內天然ノ牧野ニ發生スル草ヲ以テスレハ養ヒ難キノミナラズ凡土ノ違ヒアレハ必ス死スベシトマデ明言セラレシ事ナヘアリシガ而モ是レジョーンズ氏カ日本ニ於テ綿羊ヲ牧畜スル方法ニ於テ一層完全ナル者察ラ下シ甲斐下野常陸下總其他ノ地方(境書ヨ号)ノ凡土ヲ以テ最モ

適當ナリト為ス由ノ報告書ヲ出セシ後キノ事ナリキ
且夫レジョーンズ氏カ演ル所ノ日本ニ於テ綿羊ヲ牧畜
レ得ハキノ趣意固ヨリ實地ノ經驗ヲ遂ケタルニ非
ズシテ單ニ推理上ヨリ論及セシ事ナルカ故ニ在官ノ
人ハモ其辨解ノミニシテ實際ノ證據ヲ揚ケサルヲ以
テ強キ一人モ之レニ信任ヲ置カレザル様子ナリシ此
ニ於テジョーンズ氏又更ニ庶幾スル旨アリ則チ若シ改
府ニホテ同氏ニ何方ノ候法ヲ特許セラル、一アラバ
同氏ハ敢テ日本ニ綿羊ヲ牧畜スルノ目論見ヲ行フベ
ク其實驗ニ付テノ損害ノ如キハ同氏自カラ之ヲ擔當
セント欲ストノ事ヲ予ヲ經テ上言セラレタリ(大限重
信公同)
下ニ星
日附第
四十四
号宛書
第一條
ヲ見ヨ右ジョーンズ氏見込
ノ大畧ヲ述ヘンニ同氏望ムラク今此ニ日本政府ト

ノ契約ヲ定メ今ヨリ十二年ヲ期シテ當國ノ風土ニ
慣レタル北羊十萬頭(前同書第
五條及
第六條
ヲ見ヨ)ヲ產生セシムベク
且各々相当ノ期限ニ達セシ時ニハ數万坪ノ地區ト共
ニ之ヲ日本政府ヘ引渡スベシ而シテ此際ニホテ割羊
一頭毎ニ七弗ツ、又一年乃至一年以上ノ割羊一頭
毎ニ四弗ノ割合ヲ以テ之ヲ同氏ヘ拂渡サルベク其代
價ハ先達テ加利福尼ヨリ買入レ開墾場ヘ輸送スル時
ノ費用ヨリ少キモノトス(乙号表
中第
六號
第一
條ニ
見ヨ
又丙
号ノ
表
ヲ見
ヨ)
ヨヲ見)其本原ノ種羊ヲ外國ニ於テ買入レ并ニ之ヲ横濱
ニ運送スルノ費金ト牧養場ニ必要ナル管理人及ビ役
夫(大限
重信
公同
下ニ
星日
附第
四十四
号宛
書第
十二
條ヲ
見ヨ)如キハ悉皆同氏之ヲ擔當ス
ヘシトノ事等ナリ(前同書
第
十三
條第
二ヲ
見ヨ)斯クテ右綿羊ノ

約定代價ノ外ニ全氏ガ政府ニ望ム旨アリ則チ其第一
條ハ同氏擔任ノ期限タル十二年ノ間ニ産出セシ羊
毛ハ之ヲ市場ニ出シ当日横濱ノ通價ヲ以テ賣却スル
ハ同氏ノ責任タルベキ事(前同書第七條)其第二條ハ五千
弗ノ額ヲ以テ農具(前同書第五條)并ニ同氏ト其助役工人
及ビ動物等ニ適當セシ建物(前同書第五條)設クル事又
其第三條ハ一万五千「アクル」(一「アクル」ハ八歩餘)ノ地所(前
同書第三條)ハ官費ヲ以テ適宜ノ收地ト定ムベシト雖氏
其視察ト保証トハ同氏ノ責任ニシテ十二年ノ期限
ノ終リニ於テ(大隈重信公閣下ニ呈セシ第八百七十五
号見)其工作ノ方法ニ依リ増加セシ價直ト又其レノ為
メニ同氏ノ自カク費用セシ金額トヲ合セテ之ヲ政府
ニ還納スル時ニテハ絶ヘズ其科業ヲ勤ムベキ事(前同
書)

ヲ見ニ條)ノ類ナリ而シテ又同氏ハ此開墾場取扱ヒニ何
テ尚ホ其身ニ不測ノ妨害アルヲ防カン為メ蕙約シテ
六ヶ九ノ政府ニ引渡シタル綿羊ハ悉皆政府ノ望ム所
ニ從テ諸縣ノ牧養支局ニ送付セラルハナルベシト雖
(前同書第十一條)余(ジョーンス氏)ガ常住ノ場所ヨリ遠隔ニ
在ル牧養場ハ余自カラ之レガ取扱ヒヲ為ス能ハサル
ハ勿論ナルガ故ニ時ニ求メニ應シテ通告高議等ノ事
ヲ為スベケレバ其完全ナル事業ノ有無ハ余之レノ任
ニ當ル能ハザルナリト(前同書第十條)
以上説ク所ノ如クナレバジョーンス氏ノ見込ハ何レニ
向ケテモ政府ノ利益ニ非サルハナク現ニ政府ハ綿羊
ニ就テノ損失ニ預カルノ患ハナキガ上ニ又地所ニ就
テ莫大ノ利得ヲ為ス所以アルナリ(大隈重信公閣下ニ
呈セシ第八百七十五
号見)

五年二月十八日附第四十四号(覚)例之牧養場ニ供スベ
書第十三條第三及七條第四(見ヨ)例之牧養場ニ供スベ
キ私有地所ノ原價ハ四万二千円即チ一「ア」ルニ付六
円ヨリ多カラサル額ニシテ又此所ニ政府ガ費消スル
工勞金負ノ高ラ二十万円ト概算スレハ則チ總計凡ソ
二拾五万円ノ額ナルベシ(計年(全ク)出賃
ハ大方三万五千円乃至四万五千円ノ間ナルベク
四年(覚)書第十四條(見ヨ)然レトモ總作ノ原價及
トス(四)十條(見ヨ)而シテ十二年ノ満期ノ後チ該地ノ
真價ハ七十五万円即チ一「ア」ルニ付五十円ヨリ少カ
ラサル價格ニ至ルベケレバナリ斯ル良法ナリシカド
モホダ曾テ採用セラル、ニ至ラズ其故何ゾヤ予カ臆
測ニハ之レ蓋シ政府ハ外人ノ日本地方官ノ保護ニ依
ルラ肯ゼサル間ハ強チニ内地ノ通商ヲ禁制セントス

ルノ意趣アルニ付今頃ニ此方法ヲ採用スル時ハ自カ
ラ是レ其權利ヲ損スルノ基ナラン事ヲ外務省ニ於テ
異議セラル、ガ故ナリ左モアレ予ハ預テ是等ノ患ハ
ナカラントテ注意セシニ付只管之ヲ辨明スルヲ勤
メタレト曾テ其功アラザリシ(大隈重信公同下ニ呈セ
十八日附第四十四号(覚)書第十三條(見ヨ))
諸予ガ此方法ノ大要ヲ斯ク逐一ニ辨明シ来リシニ実
ハ是ヨリシテ乙号ノ表ニ掲ケタル期限内中下總ノ國用
整場ニ於テ耕ヒ出シタル費金ト又同所ニ於テ取上ケ
タル産物トノ始末ヲ更ニ論説セントスルニ付テ一層
分明ナル註解ヲ示サシガ為メニセシモノナリ蓋シ此
方法ヲ首尾ヨク成就セントスルニハジョーンズ氏モ亦
目カラ数万ノ金額ヲ費サハルヲ得サルノ事ナルガ故

ニ自然同氏モ其預算ニカラ盡サレシハ疑ナカルベク
良シヤ厘毛ノ違ヒナキヲ保シ難シト為スニモテヨ左
様ニ完全無瑕ナル預算ハ決シテ有ルベキ謂レナケレ
バ先ツ之ヲ以テ正確ノ者ト為スモ強クテ誤リナカル
ベシ去レハ今別紙乙号ノ表ニ掲タル期限ノ間政府ニ
於テ拵出シタル費金ヲ以テ嚮キニ陳述セシ方法ニ從
ヒ政府トジョーンズ氏ト相共ニ此事業ニ從事シタル時
ノ計算ニ比較シテ考フルニ過ル数月間下總ニ於テ執
行セシ事業ハ果シテ完全ナル理財ノ方法ト注意トフ
以テ行ハレシモノトルハ予輩ヨシテ一目瞭然タラシ
ムルニ足ルベク就テ又前ニ陳述セシ方法ニ從ヒタラ
シニハ開墾場設立ノ始メニ於テ政府ハ何程ノ費金ヲ
安スベキカジョーンズ氏ハ又其餘幾許ノ金額ヲ費消ス

ベキカノ事ヲモ知ルベキナリ曩キニジョーンズ氏ガ政
府ノ費金ハ總計二十五万圓ヨリ多カラザルベシト計
算セシトハ予輩既ニ之ヲ知レリ而シテ其後ノ書面(乙号
見表ヲ)ニ於テ同氏ガ詳細ナル仕訣ヲ為セシ計算ニ前
ニ陳述セシ方法ニ因テ費消シタランモノト同シ類ヒ
ナル今ノ方法ノ費金ヲ算スレハ七千アクルノ開墾場
ニ付テ十四万二千三百二十五圓(改ノ挿入附録第ニ即
十萬五千アクルノ地所ニ付テ二十八万四千六百五
十圓)(挿入附録第ニ條)ナルベシト云之レニ因テ見レハ
同氏ノ預算ハ前後恰々好ク符合セシモノト云フベキ
ナリ同氏ノ説ニテハ当今下總ニ於テ施行スル方法ノ
費用ハ地所買上ケ金開墾費金種羊買入レ金内外國人
管長ノ始料其外一切ノ入費ヲ合セ總計四十万三千九

百二十五円ヨリ多カラサルベシ
(丙号ノ表第一節ノ費
金總計并第一節ノ費
ヲ見)ト云ヒ又岩山氏ノ預算ニテハ總計四十九万五千
二百六十九円ヨリ少カラサルベシト云フ既ニ初度ノ
十八ヶ月間ノ費用モゴーンズ氏ノ言フニ由レハ九万
五千〇六十五円ノ額ニシテ岩山氏ノ説ニ從ヘハ十万
一千四百〇五円ナリト後ニ續ク

挿入附録

第一條

甲 丙号表中(甲印第一第一第二第三第四第五第六同ノ
第一第二第三第四第五第六第七第八第九第十第十一
第十二第十三第十四第十五第十六第十七第十八第十九
第二十第二十一第二十二第二十三第二十四第二十五第二十六
第二十七第二十八第二十九第三十第三十一第三十二第三十三
第三十四第三十五第三十六第三十七第三十八第三十九第四十
第四十一第四十二第四十三第四十四第四十五第四十六第四十七
第四十八第四十九第五十第五十一第五十二第五十三第五十四
第五十五第五十六第五十七第五十八第五十九第六十第六十一
第六十二第六十三第六十四第六十五第六十六第六十七第六十八
第六十九第七十第七十一第七十二第七十三第七十四第七十五
第七十六第七十七第七十八第七十九第八十第八十一第八十二
第八十三第八十四第八十五第八十六第八十七第八十八第八十九
第九十第九十一第九十二第九十三第九十四第九十五第九十六
第九十七第九十八第九十九第一百)

擔当スヘキ創業者ノ資金 總計

金拾五萬二千九百廿五圓

乙 右ノ内丙号表中甲印第一第一第二第三第四第五第六第七
第八第九第十第十一第十二第十三第十四第十五第十六第十七
第十八第十九第二十第二十一第二十二第二十三第二十四第二十五
第二十六第二十七第二十八第二十九第三十第三十一第三十二
第三十三第三十四第三十五第三十六第三十七第三十八第三十九
第四十第四十一第四十二第四十三第四十四第四十五第四十六
第四十七第四十八第四十九第五十第五十一第五十二第五十三
第五十四第五十五第五十六第五十七第五十八第五十九第六十
第六十一第六十二第六十三第六十四第六十五第六十六第六十七
第六十八第六十九第七十第七十一第七十二第七十三第七十四
第七十五第七十六第七十七第七十八第七十九第八十第八十一
第八十二第八十三第八十四第八十五第八十六第八十七第八十八
第八十九第九十第九十一第九十二第九十三第九十四第九十五
第九十六第九十七第九十八第九十九第一百)

金八萬四千圓

丙 差引残り

金六萬八千九百二十五圓

丁 右ノ内地所ヲ牧場ト為スノ期限即チ五ヶ年方
ノ比例ヲ以テ前本文ニ掲タル如ク毎年皆一ノンズ
氏ニ員ハシムル工作入費ノ平均高

金壹万三千六百圓

戊 差引残り即チ七千五百アクルノ地所用墾總費
用高

金五万五千百二十五圓

己 右二倍即十一万五千アクルノ地所用墾總費用
高

金拾壹万〇貳百五十圓

茅二條

甲 丙号表中甲印茅二解茅四茅五茅六茅七乙印茅
二解茅五茅六茅七茅八丙印茅五茅六茅七茅八丁
印茅六茅八戊印茅五茅六茅八己印茅一茅二庚印
第一茅二茅四茅五茅七辛印茅一茅二茅四茅六茅
七ニ掲ケタル條款ヨリ計算シ(前茅一條丁印ノ條
ニ載スル如ク)開墾地ヲ牧野場ト為セシ後千ジヨ
ンズ氏ノ擔当スベキ工作費金

乙 總計

金拾壹万九千八百圓

丙 右ノ内四万六千二百圓ハ八ヶ年半ノ間外國人
助役ノ者ニ拂フベキ總給料トシテ丙号表中ニ掲
ケタル金額八万一千九百圓ノ内ニテ一ヶ年四千
二百圓ノ割合ヲ以テ八ヶ年半ノ間内外國人助役
ニ拂ヒ渡スベキ金額三万五千七百圓ヲ差引タル
剩餘ナリ去レハ万一千九百圓ニ述ル如ク事業ヲ執
行シタル時ハ右ノ残金ハ丙号ノ表ニ載スル如ク
ナル仕用アレバ今開墾場附屬ノ農学校ヲ設立ス
ル事ナキ時ハ此残金ハ全ノ無用ニ屬スルナリ

金四万六千二百圓

丁 差引残リ

金七万三千六百圓

戊 右ノ高ニ前第一條丁印ノ條件ナル一万三千六百圓ヲ加算ス

金一万三千六百圓

己 總計即チジョーンス氏ノ擔當スベキ資金ノ分
金八万七千二百圓

第三條

甲 政府トジョーンス氏ト於テ等分ニ執行スベキ割
業資金并ニ作工入費ノ總額ハ七千五百「アクル」ノ
地ニ付前第一條戊印并ニ第二條己印ノ條ニ説キ
シモノヲ合算セシト同シ

金拾四万二千三百二十五圓

乙 壹万五千「アクル」ノ地ニ付テ右ノ高ヲ二倍ス
金二拾八万四千六百五十圓

丙 右第三條甲印ノ金額ニ丙号表乙印第一第二第三
三ニ掲ケタル指二万六千二百圓ト丙号表乙印第
四ニ掲ケタル五千圓(是等ハ綿羊ニ付テノ諸入費
ナリ)トヲ加フレハ七千五百「アクル」ノ地所ニ付テ
ノ資金總計

金二拾七万三千五百二十七圓

丁 壹万五千「アクル」ノ地所ニ付テ右ノ高ヲ二倍ス
金五拾四万七千〇五拾圓

○

前ニ蓋シ其期限ノ間當開墾場ニ備役スル作夫ハ其數
百名ニシテ一名コトニ毎月六圓ツツノ賃銀
ヲ給スル所ナレト然シ初年ヲ過テ後千ハ米及ヒ茶ヲ
除テノ外凡テ同所ニ於テ作りタル食物ヲ給与スルヲ

得ハケレハル後貸銀ノ高ハ甚ク減少シ毎月六円以下
三四五拾銭前後ヲ給スルニ至ルベシト思ハレタリ又
牛百頭馬拾頭アリテ之レヲ買入ル、ニハ一頭毎ニ五
拾円ヲ費セリ其食料ハ凡ソ七千九百二十円ノ費額ニ
シテ其他穀種代植付貸及ヒ臨時費等總テ之レニ関ス
ル條目ハジョーンズ氏ノ預算ニテ三万九千九百八拾円
岩山氏ノ預算ニテ四万〇五百四十円ナリト云建物
(代金一万八千円)農具(代金五千円)其外外國人給料并
ニ臨時費用等ニ至テモジョーンズ氏ノ預算スル所ハ五
万五千五百廿五円ニシテ岩山氏ノ算スル所ハ六万一千四
百廿五円ナリ因テ總會計ニ至テ一方ハ九万六千〇六
十五円ノ額ヲ爲シ一方ハ十万一千四百〇五円ノ額ト
ナルナリ尤モ別紙甲号ノ表ニ就テ考フレハ是等ノ計

算ハルテ其後ニ改正セシモノト見ヘタリ
今若シジョーンズ氏ノ預算ト岩山氏ノ預算ト別紙甲号
ノ表ヨリ兩号ノ表ニ至ルニテ双方共ニ全備スルナリ
ラバ予ハ現ニ其期限ノ間ニ違ヒ拂ヒタル費金ト右ノ
預算トヲ比較シテ考フル所アラント欲スト余氏嚮キ
ニ予ガ開墾場点視ノ時ニ於テ岩山氏ヨリ予ニ渡サレ
タル計算書ハ畢竟右等ノ期限ニ関スルナリナリ僅カニ
千八百七十五年七月ヨリ七十六年六月ニテニ涉レル
一通ト又同年七月ヨリ同十一月ニテニ涉レル一通
ト前後十七ヶ月間ノ計算書ニ通ニ止ルガ故ニ右ノ比
較ハ精細ニ行フヲ得サルナリ去レ氏中ニハ稍比例
シ得ヘキ僅々ノ條款ナキニモ非ス例ハハ乙号ノ表ニ
於テ右二期ノ間ニ七万八千九百廿五円六十八銭ヲ

費セリト云フ則チ此金額ヲ甲号ニ載セタル三十ヶ月ノ預算總計ニ比スレハ僅カニ三万四千四百八十五円ヲ減シ丙号ニ掲ケタル岩山氏ノ預算ニ比スレハ二万三千四百九拾五円ヲ減シ又同表ニ掲タルジョーンズ氏ノ預算ニ比スレハ二万〇五百四拾壹円ヲ増セシテ見ルノ類ナリ尤モ中ニハ最初十八ヶ月ヲ限リトシ次キノ一年ヨリ執行セサル事業モアリテ千八百七十六年十一月(最初十八ヶ月)ノ間ニ扱ヒ終ルカ故ニ自然初年ニハ其レ等ノ入費モ増シ居ルナリト云是レ實ニ然ラシ然ルカ故ニ予ハ將ニ是等ノ事業ニ就テノ預算ト現ニ其事ニ費用シタル實額トヲ調査シ而シテ最後ニ於テ其賞金ニ相当スベキ實功ノ有無ヲ指點セントスルナリ然シ今此調査ヲ為サントスル前ニ於テ頃々此

ニ記載スベキ一ノ緊要ナル事アリ他ナシ則チ三十ヶ月分ノ預算ト十七ヶ月分ニ違ヒ拂ヒタル實額トハ其差甚タ僅少ニシテ残り十三ヶ月分ノ外國人助役ノ給料トシテ餘ス所僅カニ壹万三千七百四拾五円ノミナレバ其繰越シ高九千七百五拾円ハ前ニ掲ケタル預算殘金二万三千四百九拾五円ノ内ヨリ差引カザルベカラサル事是レナリ
今丙号ノ表ニ就テ見ルニ初度ノ十八ヶ月ノ後第一年間ノ費用ハ岩山氏ノ計算ニ從ハハ牡羊二百頭ニ付三万円ジョーンズ氏ノ計算ニ從ハハ牝羊良種二百頭ニ付五千円加利福尼ニ於テ綿羊一万頭買入レ代六万円日今ノ運送費六万一千二百円横濱ヨリ牧場ニテノ運送費ジョーンズ氏ノ算スル所五千円岩山氏ノ算スル所

一、百〇二百円又岩山氏ノ計算ハ作夫五十人ニ付四千八百円ヨリレス氏ノ計算ハ作夫百人ニ付七千二百円ナリ此外草種買入レ代外國人役負ノ給料農具代等取交々臨時費金モ立此條款ノ中ニシテ最初十八ヶ月後第一年間ノ総額ハヨリンス氏ノ計算ニ從ハ八拾六万二千三百十五円岩山氏ノ計算ニテハ二十万一千〇十二円ナリ但シ甲号ノ表ニハ此計算ヲ二十万八千四百十二円ニ改正セリ

却テ又乙号ノ表ヲ檢閲スルニ初ノ十七ヶ月間ノ費金仕拂ハ左ノ如シ

第一節 諸雜費

第一節 第二節 第四節 金五百八十九圓八拾九錢

第二節 事務所費金

金二十四百八十四圓十八錢

第三節 作工費金 第一節 第四節

金壹万五千三百八十圓六十錢

次キ一層注意スベキ金額ハ第一ニ馬具農具堀垣道路等築造ノ費用第二ニハ右築造ノ用ニ供スベキ物品買入レノ費金ナリ則チ左ノ如シ

第三節 第五節

金三千八百二十一圓拾壹錢

以下諸仕拂ヒ高

第一節 植物代 第三節 第七節

金三千二百二十一圓廿一錢

第二節 動物買入代 第三節 第八節

金七万二千二百六十圓五拾八錢

第二動物餌食代 第三節第九

金九千九百四拾八圓〇七錢

第四動物運送賃 第三節第十

金五万二千二百三十六圓六拾八錢

第五内地旅行費

第一節第三節
第二節第四節

但シ牛馬綿羊等買入レ代金ノ内ニ合算セシセ多

方ナリ

金二千六百六十壹圓六拾七錢

第六雜品代

第三節第六第十一

但シ焚物茶椀寢床器具及具書籍蠟燭時計御筒

等其外トモ

金壹万六千二百五十五圓四拾八錢

第七外国人給料 第四節第一

金壹万六千〇五拾圓

第八諸建物并ニ修葺料 第五節第一第二

金八万三千八百九拾六圓二十四錢

以上予ガ計算スル所ニテハ總計金二十七万八千八百

〇五圓七拾壹錢ナレバ岩山氏ハ之ヲ二十七万八千九

百二十壹圓六拾錢ト算セラレタリ然シ今予ガ計算ヲ

為スニ便宜ナラシムル為メ替ク此ニ岩山氏ノ總計ニ從テ

乙号表中見解ノ條第三節第八ヲ見ルニ馬三百八十一

頭牛百二十八頭都合五百〇九頭ヲ買入レタレバ別紙

丙号表ノ計算ヨリ違ハニ多敷ノ如ク見ユレトモ是レ

ハ創業初年ノ間ニ死セシ牛ヲリテ爾後馬ヲ以テ牧

牛ニ代ヘタルガ故ニ此差ヲ生セシナリ右動物一頭毎

ニ五拾圓ヲノ代價ヲ以テスレバ別紙丙号ノ表甲印

第二第三ニ載セタル如ク其總價額ハ二万五千四百五拾四ト為ルベシ而シテ之ヲ牧場ニテ遠ヒ押ヒタル諸動物買入レ貴金指二万四千四百九十七円(二号表見解三号表見解)ノ内ヨリ差引ク時ハ残金九万九千〇四十七円ニシテ則チ此額ハ現在ノ綿羊一千三百八十五頭(前全)ノ費用ニ供セシモノト見做サバ可ク尤モ此内ヨリ汝未繁殖ノ見込ヲ以テ加利福尼ヨリ最良種ノ牡羊二百頭ヲ買入ル、若シレハ其代價五千円ノ右ノ残金ヨリ差引ク時ハ(前号表見解)其餘ノ残金九万四千〇四十七円廿六銭ヲ以テ現在ノ綿羊一千百八十五頭ノ費用ト為スヘキナリ蓋シ此群羊ノ中ニテ常ニ生産ノ數ハ繁殖ノ數ヨリ多ク慥ニ百頭ツ、ノ餘計ヲ加フナルヘント矣此夫レ等ノ事ハ今更詳説スルニ及ハズトシ

直千ニ一歩ヲ進ノテ着察ク下スニ別紙乙号表第六節ニ載スル如ク蒙古産ノ綿羊ハ牧場ニテノ運送費トモ僅カニ四円九拾三銭ニシテ加利福尼産ノ綿羊ハ同ク十三円ノミナルニ前書ノ計算ニ於テ每頭七拾九円餘ノ貴金ニ當ルハ頗フル不審ノ事ト云ハサルヲ得ス必竟斯ル莫大ノ相違ヲ生セシハ非常ニ巨費ナル動物ヲ買入レシ故ナルカ又ハ馬牛トモ預テノ心算ヨリ(前号表見解)數層高價ナリレニ依ルナルベク此倒底夫等ノ計算利然ナラザル時ハ荷テ得レズ凡ノ辨明シタル利得ノ目途ハ果シテ行ハレ難カルベク(前号表見解)予殆ト具辨解ニ苦ム所ナリ唯フニ此動物費金ノ内ニハ旅行費ヲ込メタルニ相違ナカルベケレトモ左様ノ事ナル時ハ予ガ惑フヤ益々甚シ

右動物費金ノ事 指テ更ニ建物費金ノ一茶ヲ看察ス
ルニ又同様ノ不審ナキニ非ス別紙丙号表乙印第五
載スル所ヲ見ルニ此ヶ條ニ就テノ費金ハ一万八千円
ヨリ多カラザルベシトアリテ其實際費用スル所ハ現
ニ八万二千円(乙号表第五節見)ノ上ニ出タル如ク修復ノ費
用ニ至ラモ亦之レト相シ(乙号表第五節見)長等ノ始末ヲ
計算上ニ是モ註解ヲ載セザルハ必定之ヲ臨時費(丙号
表甲乙丙丁印)ノ内ニ合算セラルベキ見込ナリシナルベケ
レ此別紙乙号ノ勘定書(第五節見)ニハ臨時實費金四千
〇五十八円廿一銭ヲノミ掲ケテ其餘ノ解説ヲ見ル
ト去レハ預算上ニハ八ヶ年半ノ間ニ費用スベキ建
物費金ト最初十八ヶ月(丙号表甲印見)ノ間ニ建築スベ
キ物トシテ預定セシノミニシテ實際ニ於テハ既ニ六万

四千円ノ餘費ヲ為セシニ相違ナカルベク加之尚ホ此
上建増シテ為スニ付キ幾許ノ費金アルベキ由岩山氏
之ヲ予ニ詔レリ
農具製造費ニ至テハ予其實際ニ費用セシ高ト別紙丙
号ノ表ニ載スル所トヲ比較スルノ手取ヲ得テ殊ニ乙
号ニ載セタル此條件ハ總テ土地開墾費金(乙号表第五節見)
ニ籠リシ諸項ト入組ムガ故一通り計算書ヲ見タルニ
テニテハ何分其詳細ヲ知ルニ由ナキナリ
次ニ一層緊要ナルハ作工ノ際ナリ今予力得タル通告
ト別紙乙号ノ表(第五節見)ニ載セタル計算トヲシテ
正確ナラシメハ其十七ヶ月(乙号表見解第三節見)間ノ作工
ニ因テ費用セシ高ハ預算上三十ヶ月方ノ預算ニ於テ定
メタル比例ヨリニ違ハニ巨額ヲ費セリト云フモ決シ

テ誤リナキガ如ク斯ノテ又一方ノ事業ノミニ就テ論
スレハ此作工ノ間ニ行ヒタル開墾ノ地坪ハ預算ノ數
ヨリモ甚タ少ク預算ハ一千四百十四「アノル」ナルニ実
際ニ於テハ唯僅ニ五百五十「アノル」ヲ耕セシノミ此比
例ヲ以テスレハ歎類時疫ノ為ニ損失スル期限六ヶ
月ヲ差引ク時ハ三十ヶ月ニシテ稍ク九百十六「アノル」
ヲ開墾スルバカリナラン(乙号第三節見解第五并見三丙
号甲乙丙丁戊己庚印ヲ見ヨ)
以上説ク所ノ如ク出金ノ部ハ預算實費共ニ是々巨額
ナルガ上ニ又入金ノ部ヲ省察スレハ同ク是レ極究ノ
甲斐イラザル程ナリ岩山氏ノ計算ニテハ(丙号見甲乙丙)
最初十八ヶ月ノ後三年ニテハ当所ニ於テ一切收納ノ
事ナント云フト策モ是レハ大ナル誤リニシキ地所開
墾ニ着手セシ当年ヨリ何程カノ産物ハアルベキ筈ナ

ゴーンズ氏ノ計算(丙号第一節ヲ見ヨ)ハ之レニ及シ最初十八
ヶ月ノ間ハ一万七千三百圓ノ所得ニシテ翌年ヨリハ
一万六千八百圓ツノ歳入アルベト云而シテ乙号
表第三節七解勞セテ見ルニ過クル期限ノ間羊毛木炭
ノ類ノ如キハ極ノラ僅々ナルヲ以テ殊更計算ニ載ス
ルベテモナク其餘當所ニ於テ得タル所ノ産物ノ代價
ハ現在綿羊一千三百八十五頭餘ヲ牧養シテガウモ僅
カニ二千餘圓ニ止リシガ如クナリ斯レ亦都合ハ歎類
ノ時疫ニ因テ生シタル時日ト金額トノ損失ヲ以テ其
辨解ト為スニ足ラサルハ尙論ニシテ若シクハ其期限
ノ間ニ費消セシ作工ノ費金モニケ羊ヲ過カレバ之
ヲ賠償スルヲ得サレ事ナルカ故ニ僅カニ十一月月ニ
シテ斯ノ如キ産物并ニ羊毛ノ類ヲ得ベキニ非スト云

か如キ陳状ヲ為シテアリトモ是レ決シテ其當ヲ得サ
レナリ依令ハ斯ル情實ニ因テ場内ノ作物ヲ實ニ收
獲スルヲ得ガレニモセヨ左程ノ地面ニ少シニテモ耕
耘セシ上ハ全ク作物ノ成熟セシハアルマジク又當
所ニ綿羊ヲ牧畜スル以上ハ其餘ノ所産ノ十キ下ハア
ルマシキナリ夫共ニ田野ノ開墾モ為サ下又綿羊ノ買
収ニ行ハザリシテナルカ予輩之ヲ知ラズ

今ヤ下然ニホテ斯ク莫大ノ金額ヲ費消セシ事并ニ當
所ノ所得ノ甚々些少ナリシ所以ヲ考フルニ蓋シ其費
金ノ大ナルハ蓄テ預寔セシ高ヨリモ(建物ニ付テノ費
用夥多ナルヲ以テ)實ニ四倍ノ多キヲ費消セシガ故ニ
シテ又其所産ノ少キハ別紙甲号及ビ丙号ニ掲ケタル
行策ノ高ト又開墾ノ資本トシテ遣ヒ掛ヒタル資金

此スルニ土地ノ開墾ト綿羊ノ輸入ト何レモ預期
高ヨリ甚々僅少ナリシガ故ノ致ス所ナルハ必然ナリ
左モアレ何故ケ様ノ場合ニ至リシヤ其始末ハ最モ精
密ナル視察ヲ尽スニ非リレバ當テ知ルヲ得サル所ニ
シテ予カ開墾場ニ赴キシ如キ暫時ノ間ニ如何ヲ斯ノ
如キ視察ヲ能クスルヲ得ベケンヤ

第二條

開墾場ニ於テ荒田築圃ノ事

附 同所ニ在ル役夫ト獸類トヲ養フベキ食物ヲ
作ル事

甲号表中見解ノ條 依レハジョーンズ氏并ニ岩山氏ノ
二人ハ何レモ綿羊ノ食料ナル培養草(人作ノ草ニ非ニシテ)

下(新)耕作ノ旨ノ流田ヲ築回スルノ事業ヲ廢止ス
ベキ免許ヲ得レト欲スルガ如シ此請願タル蓋シ下
ニ於テ實際而三季ノ間自然草ヲ以テ綿羊ヲ牧養シ得
タルヨリ起リシ事ニシテ實ニ平當ノ事ニハアレバ又
予ガ説ヲ以テスレハ決シテ此請願ヲ免許スルイテ得
サルベシ試ミニ其趣意ヲ述ベンニ第一、今其企圖
ノ方法ヲ実試スルモ敢テ不可ナルイカクニ之ヲ行
フ能ハザルハ何故ナルカ其理方明ナラサルナリ僅カ
ニ数月間下然ニ於テ綿羊ノ生育シタレハトテ未タ之
ヲ以テ日本國中何処ニ於テモ自然草ヲ以テ牧養シ得
ベキノ実証ト為スニ足ラサルハ勿論ニシテ殊ニ日本
ノ諸縣ニハ多ク綿羊ニ害アル牧草ノ類ノミ成長シ下
然ノ自然草ノ如キモノ曾テ有ラザルハ予輩皆既ニ知

所ナルカ故ニ到底見込ミノ如ク諸縣ニモ綿羊ヲ牧
養セントスルニハ是非共其処ニ下然ノ自然草或ハ培
養草ヲ耕作セザルヲ得サル事ナレバナリ又第二ニハ
予ガ嚮キニシテ陳述スル如ク此事業ヲ施行スルニ就テ
己ニ莫大ノ費金ヲ散シタレバナリ蓋シ綿羊牧畜ノ為
收草ヲ培養スルニ付キ三ヶ條ノ事務アルハ事ノ知り
易キモノニシテ其第一條ハ動物農具等ノ買収并ニ役
夫中馬ヲ新規ノ工業ニ訓練スル等ニ付キ莫大ノ費金
ヲ要スル事第二條ハ土地ヲ掃除レ初メテ之ヲ用墾ス
ル事但シ一アクル毎ニ壹円五拾錢前後ノ僅クナル費
用ヲ以テ為シ得ベキ事又第三條ハ此新タニ開墾セシ
土地ニ培養ノ種ヲ播キ小麦或ハ穀物ノ類ヲ殖付ヘ
シ左スレバ五ヶ年ニシテ八万四千円ニ下ラザル收納

ヲ得ベキ事(丙号表甲印第5并ニ印)等ノ儀是トナリ
然リ而シテ唯夥多ノ費金ヲ要スルノミナル其第一條
ノ事業ハ今既ニ之ヲ終リタル時ニ当リ其餘施設ノ費
金ヲ要セサル事業ノミヲ廢止セントスルハ抑々何故
ナルカ具理頓ニ解得スル能ハザルナリ去レハ予ガ説
ヲ以テスレバ此土地ニ培養セントスル牧草ハ既ニ収
獲スルマデノ費用ヲ散セシモノナルガ故ニ若シ今ニ
シテ綿羊ノ飼養ニ不要ナリトセバ之ヲ廢止スルヨリ
モ寧口之ヲ賣却スルヲ良シトスヘク左スレバ従前ノ
方法ニテモ同壘場ノ費金(預算ヨリ多カルベシト見ヘ
タレト)ヲ價フニ足ルベキ所尚ホ一層ノ利得ヲ加フベ
ケレバナリ

三 壘場管理人ノ懇願スル延期ノ一案(甲号表見解)ハ予ノ

九ヶ年ニ減シテ先許スヘシ人アリテ其傳染病
ノ為メニ獸類ヲ損失セシテ非難スルトモ是トモ實ニ
ノンス氏ノ罪ニ非ス又岩山氏ノ罪ニ非サルナリ去ル
千八百七十三年間予カ朋友タル在上海トクトルニク
コワン氏ヨリ當時ノ外務卿ヲ經テ流行病ノ將ニ日本
ニ傳染セントスル由ノ豫報ヲ政府ニ進呈セシテアリ
テヨリ内務省ニテハ專ラ預防ノ方法ヲ施サレシナル
ベシト云ハ然レシ千八百七十五年間當場ニ亦テ非常ノ
損失ヲ為セン頃ニテ嚴ニ之ヲ施行セラル、丁ハナカ
リキ然ルカ故ニ當場ニ在ル官夫モ其時疫ノ今日ニ在
スル由ヲ知ラサレハ當テ之ヲ預防スルノ方法ニモ行
ハザリシナリ

○

第三條

作工ノ事

此條件ニ就テハ在場ノ管理人モ凡テ此ニ力ヲ尽サ
ル、ナルベシト思ハル去レ尺判紙乙五表第三節先解
第五ヲ見ルニ作工ノ事ハ預テ庶幾セシ程ニ充分整頓
セシモノトハ見ヘサルナリ柳、当場ハ之ヲ六區ニ分
テ每區備役スル所ノ人負ハ皆一様ナレドモ其大サ全
ク同シカラズ中ニ就テ三十一町ヲ耕作スル區モアリ
ハ又僅カニ十八町ヲ耕作スル區モアリ現ニ第五區ハ
八十三町アリテ第五區ハ稍ク廿二町ニ過キス而モ此
二區ニ於テ使役スル工夫ト牛馬トニ至テハ前ニモ云
フガ如ク其數皆同一ナリ若シ一區ニ於テ臨時工作ヲ
要スナラバ爾時ハ他ノ區ノ役夫ヲ兼用シテ其工ヲ分ツ

テラセズ其時々他所ヨリ新クニ備入ル、ナリト云
ニ近日築造セシ諸建物アリ計算上ニ數月前修理ヲ加
ヘシト云フハ則チ是レナラン但シ預テ區毎ニ一人ツ
、ノ木匠ヲ附屬スルナリシガ前ノ如キ情實ニテハ
此修理ハ何者ノ年ニ成リシヤ右ノ木匠ノ為ス所ナル
カ抑々又他所ノ者ノスル所カ其實更ニ解ス可ラサル
ナリ且又區域ノ堤防ヲ建築セシニ其費用ハ皆一様ナ
ラス岩山氏云フ此資金ノ不同ナル當ニ其大小ニ依ル
ニ非スシテ實ハ其糾率ヲ運搬スル路程ノ遠近ニ依レ
リト然ラハ何者カ此堤防ヲ作リシヤ又何者カ此建築
用ノ土砂ヲ運搬セシヤ蓋シ是等ハ他所ノ請負ハ、年
ニ成リシカ或ハ又當場ノ役夫百三十人ト六區ニ分配
セシ貨車ト馬等ヲ用ヒテ成就セシナルカ若シ夫レ

當場ノ役夫等ヲ使用シテ成就セシ事ナラバ其ノコソ
實ニ至当ノ處置トシテベキナレトモ若シ或ハ之ヲ他
ノ請負人ノ手ニ成リシトスル時ハ管理人等ノ公
金ヲ浪費シ無益ノ勞役ヲ行ヒル罪深シテ免ル可ラ
サルナリ又當所ニ在ル買物役所ハ唯算用ヲ為スノミ
ニ何故ケ程ノ多人數ヲ要スルヤ蓋シ當場ニハ六十名
ノ生徒アリテ皆其教導ヲ受ル者共ナレバ管理人等宜
ク相應ノ指揮ヲ施シテ是等ノ事務ニ従事セシムベク
左スレハ自然政府ノ費用ヲ減スルノミナラズ又各自
修業ノ一端トモ為ルベキ事ナラズヤ抑々當場ノ生徒
タラシ者上ハ管理人ノ職掌ヨリ下ハ最下等ノ役夫ノ
動作ニ至ルマテ百般ノ事業一トシテ習熟セザルハナ
ラズ土地開墾ニ付テハ事務ハ悉皆之レガ進退ヲ為シ

混ベキ程ニ修業セサル可ラス又唯是等ノ事ノミナラ
ズ農人ハ各々當場ノ利益ヲ計リテ尋常日々農夫ノ所
為トスル所ノ作物賣買ノ事ヲモ擔當スヘク若シ一軒
ノ小屋ヲ設ケントスルヲアレバ各々其耕作ノ間々
時ニテモ寄合ヒテ之ヲ助手スル者トシ荷車馬具其外農
具ノ破損シテ修理ヲ要スルモノハ雨天ニテ戶外ノ作
事成ラズ時ニ一同之ヲ勤メトシ或ハ塙垣ノ破損ヲ補
ヒ或ハ新タニ之ヲ構ヘ其他僅々ノ人夫或ハ荷車ノ有
用ナル時ハ相共ニ之ヲ兼用スル等尽ク放棄スレニ違
テアラズ是レ皆以テ生徒等ノ勉強從事スヘキ事業ナ
ルモノナリ若シ夫レ斯ル方法ニテモ遂ニ生徒ノ習熟
セシムルヲナクハ及令ヒ今作物ヲ耕ス事ヲ學ビ或ハ
綿羊ヲ養フ事ヲ知りタレハトテ後未決シテ此ニ事ヲ

節儉ニ行フ様ニハ成レシマジク良シ一方ノ作事ヲ行ヒ
得ベキニモセヨ其費用ハ恰モ現今下總ニ於テ執行フ
ルモノト均クシテ尚ホ且教層ノ多キヲ加ヘ到テ其産
物ノ賣上ケ高ヨリ十倍ノ巨額ヲ散スルノ類ナルベキ
ナリ又岩山氏云フ近日ラザム氏ノ製作セシ器械ヲ以
テ荒地ヲ開墾スル一茶ハ頓フル前日ノ産ミニ違ヘリ
ト然レ同氏能ク此事ヲ思フテモ見ラレヨ今此器械ノ運
用法ガ同氏ノ預テ想像セシ如ク莫大ナル節儉法ニ即スト認
メラルハ蓋シ同氏ノ言フカ如ク平日耕作ノ暇アル時ニモ農
馬ヲ養ハル可ラス或ハ日本ノ習慣ニ因テ農夫ヲ之レニ
代用スルトモ又其養食ハ恰モ馬ト均クシテ而シテ不
労働セサルガ故ノ事ニハ非サルナリ抑々此事、同氏ガ平
日農業ノ暇アル時役夫ヲバ他ノ工業ニ使用スルヲナク空

散ナラシメ而モ他ノ事業ニハ必ス餘計ノ費金ヲ拂ヒ
計ノ人夫ヲ備役スル等ノ事ヲ為スガ故ニシテ畢竟農馬ヲ
使用セサル時間ト其餌食ト又之レニ附タル農人馬夫ノ
時間ト養食トヲ損失スル如キ處置ヲ施セバナリ

○ 第四條

當場有用ノ農具製作ノ事

初メ予ガ下總開墾場有用ノ農具製作ノ為メ、ハソトルラザム
ヲ聘セン事ヲ目論見タル時ニハ獨リ以テラク是レ恐ラクハ節
儉ニ行フヲ得サルベシト又及令ヒ都合ヨク成就スルニモセヨ
斯ル新發明ノ良法ハ寧ロ之ヲ一時ニ外國ヨリ買入スル
ニ如カサルベシト然レドモ大久保公ハ断然予ガ嚮キノ
見込ヲ採用セラレシヲ以テ爾後ラザム氏擔當ノ工場ハ頓

ニ盛大ノ業ヲ起スリ今ニシテ考フルニ若シ此時ニ於テ英
國又ハ米國ヨリ此^{ゴロ}耗ヲ買収シタランニハ到底下總ニ於
テ執行スル事業ニ適應セザル物ニシテ毫モ其功用ノ為
サ、リシナルベシ今倫敦府下グレイ^{グレイ}街ニ畜地^ラル^ルニ製
造所ニ於テ製造販賣スル耕作器械ノ附録條目其他諸社ノ
明細書ヲ見ルニ栗樹ノ根ヲ切截スルガ如キ^キバ^ラト大サト
ヲ備ヘタル耒耜ハ未タ嘗テ何處ニモ見成セシモノナキ如ク
中ニ就テ周圍四^{イン}ノ物アレド是レハ方今下總ニ於テ
築回セル如キ荒地ニハ細細エノ如ク幾個モ組合スルモノ
ニシテ其^レス^ラ之ヲ扱カシムルニ相應スベキ程ノ馬九頭^{ダケ}ノ
轆木モナク又馬具鍔鎖ノ類モ有ラサレハ到底如何シテ此器械
ヲ使用スベキカモ分リ難キ程ナリ然ルニ今度ラザム氏ノ工
夫ニヨリ麻ヲ以テ馬具ヲ作りタリシニ却テ獸皮ヲ用ルヨリモ持

久ニシテ殊更耒耜ノ為メニハ極メテ堅牢ナル如ク又其外ニ
九頭ノ馬ヲ繫クベキ轆木ヲモ發明セラレタル^ダ故ニ從來
栗樹ノ根ヲ斬テ之ヲ取退クルニハ力ヲ以テセシガ為メ費用
ノミ多クシテ適宜ニ掃除スル^{コト}ヲ得サリシモ今ハ日毎ニ
二^{コト}ア^クル^羊ツ、ノ土地ヲ開墾スルニ至リタリ左レハ今
度ラザム氏ノ功勞ハ當ニ新規有益ノ方法ヲ日本ニ創進
セシ^ノミ^ノ事^ナラズ大ニ政府ノ為メニ期限ト資金トヲ
省減シ又當場管理人ノ為メニハ無用巨費ノ濫^ヲ爲ス^{コト}ヲ
ヒタル功績比類ナシト云フヘキナリ(右ラザム氏製作耒耜ノ解^ハ別
紙乙号表第三節見解^第五^ニ詳^カナリ)以上農具ノ發明製造ニ
付テ至當ノ着察ヲ下^ス大^ニ檢^ス如クナレト今耒耜轆木及ヒ馬
具ノ事ノミヲ左様ニ論述スル時ハ却テ下總ニ於テノ實功ヲ記
載スルニ疎^カナルニ似^タリ^テ備^現今^下總^ニ於^テ製作セル耒耜ハ固^ク

リ此事業、為殊更ニ製造セシモノナルヲ以テ平地ノ耕翻ハ充分ニ行
ハルベシト云々若シ之ヲ別種ノ地面又ハ水田等ニ施シタラハ如何
ル功用ヲ為スベキカ果シテ外國製造ノ米稻ト今下然ニテ使
用スル米稻ト同一ノ功用ヲ為スオランカ米タ以テ知ル可ラサルナリ蓋
シ此一糸ハ日本ノ一民タル農夫ノ労働ヲ助クル一要件ニシテ米匡ニテハ
農馬スラモ用ヒ難シト為ス程ノ事ナレハ(米匡ニテハ労働ヲ助クル一要件ニシテ米匡ニテハ
米稻ヲ用ユルヲ行ハレリ)
当場ノ管理人モ宜ク此ニ注意アラレテラ要ス若シ夫ノ救回ノ経路ニ因
果シテラサム氏ノ功勞ニ一定セバ予ノ大慶亦之レニ過キサルナリ

第五條

場内建物ノ事

当開墾場ニ在ル諸建物ハ凡テ堅固ト節儉ノ二法ニ因テ設ケラ
タレ如ク見ヘタリ其小舎ノ如キモ一坪ニ付二円六十三銭ツノ

代價ナレハ之ヲ普通ノ木匠ニ於テ建設セシモノト看做ス時
ハ格別過分ノ高價ナリトモ見ヘス又役員私住ノ建物ニ
至テモ此上強クテ節儉ヲ行フモ格別見ルヘキノ邊ヒナカ
ヘキナリ試ミニ一例ヲ挙ケンニラサム氏ノ住家ハ一坪ニ付十九
円ツノ代價ナレバ固ト東京ト成田ノ二所ヲ兼務スル人ノ為
メニハ甚々過分ノ費用ノ如ク且昂カ東京ニ於テ親ノ実験レシ所
ヲ以テスルニ一坪十四円ツノ代價ナレハ必ス建設スルヲ得ベキナリ然レバ
是等ノ邊ヒニ因テ何程ノ餘費ヲ為スコト同ハ僅カニ百圓十四圓ニ滿ノ事
ナレハ況ンヤ東京ノ相場ヲ以テ下總ノ建物ニ適當セリト為スノ明証ナキ
ヤ因テ惟フニ建物ノ件ニ付當場ニ於テ巨多ノ費金ヲ散シタル由縁ハ昇
竟圻割リノ相場格外高價ナリシ故ノミニハ非カシテ其ノ
建物ノ負數并ニ種類ヲ裁定スルノ識量ナキト又場内
備役ノ人夫ヲ用ヒスルテ之ヲ他所ノ木匠ノ手ニ委テ

タルトニ根スル事ナルヤ明カナリ中ニ就テ最ニ無用
ノ建物ト云フベシハ出納掛リ役負ノ証書類ヲ保護ス
ル為メノ文庫ニシテ是コソ実ニ無益ノ出費ナレ如シ
若シ全ク之ヲ保護スルノ意ナラバ唯ニ役員ニ命
ジ僅ニ五弗ヲ費シテ白紙ノ帳簿ヲ求メ之レニ各四通
ツ、ノ証書ヲ記載シ而シテ一ハ内務省ニ備ヘ一ハ大
藏省ニ備フベシ右二省ニ於テ之ヲ保護スルノ場所ハ
幾許モアルベケレバ自然其庶幾スル所ノ日途モ貫徹
スベク加フルニ一千五百円前後ノ費金ヲモ省クベキ
ナリ然ルニ一人ノ此ニ思ヒテ回ラス者ナキハ蓋シ当
場ノ費金モ大方此類ナリト見ヘタリ

第六條

當場ニ於テ農業及ヒ牧羊法ニ従事スル諸縣ノ少
年生ノ事

少年生徒ノ端正嚴肅ニシテ能ク緊要ノ学事ニ刻苦勉
勵スル者此所ヲ措テ外ニ何処ニカ在ンヤトハ是レ当
場一般ノ思フ処ナリ蓋シ是等ノ貴重ナル少年生ハ其
身固ト富家ニ人ト成リ僅カニ數年前マテハ數多ノ奴
僕ヲ使役シタル外自カラ一物ヲモ取リタル事ナキ人
々ナリシニ一朝國家ノ利益ト又其身後来ノ日途トノ
為メニ未タ曾テ覺ヘサル事業ニ従事スル者ナルガ故
ニ之ヲシテ工業ノ方法ヲ實際ニ行ハシムルハ實ニ緊
要ノ事件ト云ヘク殊ニ今此輩ノ當場ニ於テ修業スル
所ハ則チ後來生計ニ因テ起ル所ニシテ其成績アルニ
或ハ有ラザルモ偏ヘニ其教導ノ善惡ニ依ルベキナリ

然ルニ現今下總ニ於テ此輩ニ教ル所ノ授業法ハ
曩キニモ云ヒタリ如ク千八百七十五年中ジョーンス
ノ定メタル預算ト又其以後実地ニ仕拂タル費金トノ
間ニ格段ノ相違アル程ナレバ當場ノ處置ニ就テハ百
事信任ヲ措キ難キニモセヨ頗ル其宜ヲ失スルモノト
云ハサルヲ得ス勿論此授業ノ一条ハ万事ニ付テ望マ
シカラヌ事ナルベケレドモ元来當場ヲ開設スル所以
ハ一ハ生徒ヲ教育センガ為メト又一ハ此事業ニ因テ
后来利益ノ業ヲ起サンガ為メトニ在ル事ナレハ當場
ノ斯ク存立スル間ハ決シテ他ニ改正スヘキノ良法ナ
キヲ思ハサル可ラス蓋シ是レ恰モ一方ニ善ケレバ一
方ニ惡シト云ヘル諺ノ如クナルガ故ニ今予ノ説ヲ
以テスレバ寧ロ生徒ノ学場ト本分ノ開墾場ト各其所

ヲ差別スルコソ良策ナルベキナリ方今當場ノ事業如
何ヲ視察セラル、人々モ專ラ其成績ノ宜キヲ賞賛セ
ラル、ノミナルガ故ニ却テ其レガ為メニ右ノ方法ト
又農業ニ付テ利益ヲ得ルノ本源タル嚴密ノ節儉法ト
ヲ此事業ニ施ス能ハサルガ如ク且又一方ニ就テ論ス
レハ若シ管理人ノ一負トシテ常ニ其事業ヲ所理スル
ノ權ヲ專ニスル者マランニ假令ヒ預定ノ目途ヲ誤ラ
ザラントスルモ到底同人ノ事務ヲ扱フニ必ス自個ノ
趣意ヲ貫徹セントシテ却テ一方ノ同僚ヲ排斥スル事
ナシト云ヒ難ク自然兩負ノ間ニ不和間隙ヲ生スルニ
至ルヨリシテ生徒等ニ在テハ何レカ是ニシテ何レカ
非ナルヲ知ラス殆ト前途ノ方向ニ迷フニ至リ遂ニ衰
頹ノ状ヲ現ハスマ疑ヒアラサルナリ去レハ曩キニ予

ガ覚書第四十四号ヲ以テ此事業ノ方法ヲ建言セシ時
ニ當リジョーンズ氏ハ既ニ此学校ト開墾場トノ二所ヲ
區別シテ以テ双方ノ抵觸ヲ防ントスルノ見込アリシ
ガ是レ則チ同氏ノ實際經驗ノ功ヨリ出テシ事ニテ実
ニ至當ノ論ト云フベク予輩其注意ノ深キヲ感スルナ
リ予ノ思フ所ヲ以テスレバ今ニシテ此區別ヲ行フモ
決シテ其期ニ後レタリトス可ラザル如シ備此方法ヲ
行ハンニハ嘗テ當場ヲ六區ニ部分セシ其中ノ一區ト
又其レニ附キタル諸ノ需用物トヲ悉皆分テ別所ト為
シ而シテ此所ニ生徒ノ教場ヲ設ケ諸ノ緊要ナル理学
ハ勿論農業及ビ牧羊ノ諸学科ヲモ講習セシメ時トシ
テハ又之ヲ実地ニ研究スルコトヲ許スベシ斯クテ日々
勉強怠ラス加フルニ巧妙且節儉ノ注意ヲ施サバ生徒

ノ熟達スルニ至ルハ疑ヒナク其上充分ノ進歩ヲ見ル
時ハ則チ之ヲ本分ノ開墾場ノ屬負ト為シテ使用スル
コトヲ得ベク此時ニ於テ政府カ當場ノ為メニ善キ管理
人ヲ得ルハ利益ハ畜ニ之ヲ教育スル時ノ勞ヲ償フノ
コトニ非サルナリ但シ此改正ノ一条ハ最初當場開設ノ
事ヲ決セシ時ノ見込ニ稍反クト虽モ決シテ費金ノ増
加ヲ要スル事ナカルベシ

○ 第七條

未段ノ意見

以上縷述スル所ノ見解ニ於テジョーンズ氏ニアレ岩山
氏ニ在レ或ハ其他ノ屬負ニ在レ予ガ慢リニ之ヲ諷諭
セシト思ハレンハ甚ク願ハシキ事ニ非ス固ヨリ上ハ

當場ノ長官ヨリ下最下等ノ工夫ニ至ルマデ各其才
ニ從テ種々ノ地位ニ置カレ、モノナレバ其レ等ノ人
々ガ自國ニ尽スベキノ義務ニ汲々ラザレバトテ予
ニ於テ何ゾ之ヲ非議スルノ理アラシヤ実ハ右等ノ人
々モ必ズ多少ノ過誤失錯ナキニ非サレド却テ之ヲ証
明賛譽スルノ辭多キニ居ルナリ。儲全体ノ形状ヲ着察
スルニ此事業ニ付テ最モ折耗トスベキハ、ジョーンズ氏
ノ常ニ不在ナル所以ナリ。抑々同氏ノ不在ナル時ハ、
ガム氏之レニ代テ進退スベキノ威權ナク唯此時ニ於
テ當場ノ總管理ヲ擔任セラル、ハ岩山氏ニシテ此人
聰明伶俐最モ有為ノ官吏ナリト、魚尾元來斯ル大業ノ
指揮ヲ擔當セラルベキ經驗アリシニモ非ス且其学力
智識ノ拔羣ナルハ勿論ナレ。此是レ唯學課ヲ遂ケタル

優等ノ書生ガ直々ニ卓越タル教頭ト為ルヲ得レド却
テ此輩ニ職工商人或ハ農家ノ純益ヲ注視スル事業ヲ
以テ任スルノ才能ナキト同一視セサルヲ得サルナリ
去レバ、欧米各國ニテハ是等ノ大任ヲ或ル吏員ニ委子
ントスル時ハ先ツ若干ノ年限ヲ期シ、余人ノ假令ヒ學
カナキモ能ク教多ノ實驗ヲ經終身其職業ニ從事スル
者ニ從ヒ學校教官ノ未タ曾テ教ヘテ施サ、ル所ノ蘊
奥ヲ學ハシムルヲ法トス。今ヤ岩山氏ハ則チ此地位ニ
在リテ而モ能ク此輩ノ優等ナル者ガ行フベキ程ノ事
業ヲ勤メラレシガ如クナレド然レ固ト同氏ハ其費用
ヲ念トセラレサルヲ以テ強クテ規則通りノ農業ヲ行
フヲ勉メトシ却テ旧慣ノ農人例ヘバラガム氏ノ如
キニ至テハ甚タ之ヲ懸念セサルニ非サリキ勿論右ノ

ラガム氏ヲシテ當場ノ事務ヲ執ラシムル時ハ場内ノ
道路モ斯ノ如ク平坦且真直ニハ成ル可ラズ外圍モ斯
ノ如ク整正美麗ナルニ至ラス又建物モ斯ノ如ク竣功
設立スルヲナカルベシト虽也然レ同氏ノ處置ヲ以テ
スレハ大方其費金ノ半額ヲ以テ道路ハ恰モ現今ノ如
ク人畜ノ耕場ニ至ルヲ得且作物ヲ運搬スルニ差支ヘ
ナキ程ニ構造スベク又建物ハ人間ト動物ノ二者ヲ覆
フニ足ルベキ程ニ設クルナルベシ假令ヒ又此二者ノ
為メニ美飾ヲ施スヲアルニモセヨ決シテ現今ノ如ク
盛大ナル事ハ為スベカラズ是レ則チ前二者ノ健康ヲ
保全スルト又隨テ其勉強忍耐ヲ獎勵スルトノ為メナ
レバナリ蓋シ米因西方ノ開墾地ニ於テ空手起業セシ
者ノ俄カニ富家ト為ルモ皆凡テ是等ノ節儉法ヨリ出

ルトニシテ今當場ニ在ル生徒ヲシテ從來目撃セン形
状ト又諸書ニ就テ見ル所ノ甚タ究約ナル有様ノ画図
トヲ参考セシメハ抑々農家ノ生計ハ如何ナルモノナ
ルカラ當時ニ於テ思量スルヨリハ尚ホ一層實際ニ涉
ラシムルノ利益アルベキナリ
佛帝那破翁第三世ハ嘗テ其歳入ヲ増加セン為メ并ニ
佛國ニ牧羊法ヲ開カン為メ自個ノ家財ヲ散シテ数多
ノ開墾場ヲ設立シ以テ同國ノ牧羊法并ニ農業ノ進歩
ヲ促カサントテ決心セリ是レ恰モジョーンズ氏カ千八
百七十五年二月中自費ヲ以テ日本ニ綿羊ヲ牧畜スベ
キノ見込ヲ建言セシ時ノ衷情ト一般ナリ斯クテ同帝
ノ見込充分ニ行ハレ其代理人ヲシテ其事業ヲ所理セ
シメタルハ是レ當今下總ニ於テジョーンズ氏不在ノ間

其代理ヲ扱フモノト雖ク似タリ夫レヨリシテ同帝ハ
漸次他ノ家畜ヲモ牧養ニ專ラ其方法ヲ研究セシガ遂
ニ同国ニ於テハ一向實地研究ノ農人ヲ増加スルヲナ
ク殊ニ又夥多ノ金額ヲモ損失シタリキ然ルニ下總ニ
テハ僅カニ費金ノ損失ヲ為セシモ敢テ日本ヲ衰頽ニ
陥ラシムベキノ巨額ナラス而シテ是迄ニ成就シタル
教件ハ皆凡テ最初開墾場設立ノ議ヲ決セシ時ニ於テ
定メタル見途ノ成績ヲ来スベキ事共ナリ斯クテ今一
大開墾場モ殆ト整頓セシ如ク荒蕪ノ土地ハ既ニ掃除
開墾ノ方法ヲ施シ道路塀牆住家等ハ尽ク之ヲ築造シ
不熟ノ農民モ大方農具ノ用方ヲ習練シ獸類モ亦既ニ
其工業ヲ助クルニ慣レ綿羊ハ極悪ノ時節ニ外國ヨリ
買收シタレモ尚ホ能ク之ヲ畜養スルヲ得又當場ニ於

テ生産セシ仔羊モ健全ニシテ其綿毛ハ尽ク需用ニ適
スベキガ如ク殊ニ天然ノ牧草ヲ以テ育養セシナレハ
永久尚ホ此ノ如クナルベシト思ハル此外田野ヲ開墾
シ收穫ヲ為スニ付テ必要ナル器具ノ類ハ悉ク皆當場
ニ於テ製作シ能ハサルハナシ斯ノ如クナレハ今後此
土地ヲ有スル者アランニ假令ヒ一銅錢ノ野ヘナキモ
尚ホ生計ヲ營ミ得ベキノミナラズ少シク此ニ遠計ト
戒心ト又練熟ノ功トヲ施サバ此上資金ノ増加ヲ要セ
ズトモ坐ナガラニシテ富者ト為ルベキハ必然ナリ
以上説明シ来ル所ノ趣意ハ皆予ガ緊要ナリト思量シ
タル條件ニシテ良シ是迄ハ當場ノ事務ヲ擔當セラル
ル人々ニ於テ左バカリノ功績ナキニモセヨ今ヨリ後
チ果シテ斯ノ如クナルベキヲ希望スルナリ蓋シ之ヲ

行ハントスルニハ須ク一ノ官吏ヲ撰抜シテ此事務ノ
總理タラシメ其餘ハ皆之レニ從フ者ト為サ、ル可ヲ
ス若シ予ノ者察ヲシテ誤リナカラシメバ此總裁ノ任
ニ當ラン者ハ去ル千八百七十五年五月廿七日内務省
指令ノ條款ニ從ヒジョーンズ氏ヲ措テ外ニ誰レニカ在
ランヤ左モアレ同氏帰着ノ後チ若シ此任ニ當ルヲ肯
セサル事アレバ是同氏ハ其朋友ノ懸望ニ背ク者ト云
フバク且曩キニ同氏ガ政府ノ撰挙ヲ蒙ラン事ヲ希望
セシ時ニ當リ偏ヘニ厚情ノ助カヲ與ヘ褒賞ヲ得ルヨ
リモ專ラ同氏ノ功劳ニ因テ日本ト同氏ノ為メニ成績
アラシトテ望セシ人々ニ對シテハ最モ其名譽ヲ害
スルノ罪決シテ免カル、ヲ得ザルベキナリ。

東京ニ於テ

千八百七十七年
五月三十日

チャーレス、ダブルユ、リゼンドル

謹白

大日本帝國政府大藏卿

大隈重信公閣下

大日本帝國政府勸農局副長官

松方正義公閣下

甲号表

八ヶ年半分牧羊ニ関スル出入總豫算 (千八百七十五年仕出)

| 期 限 | 出 金 之 部 | | | 入 金 之 部 | | |
|----------|------------|----------------------|------------|----------------|--------------------|----------|
| | 出金總計 | 非常準備金 預差益金 差引金 | 出金總計 | 綿羊產物具外賣 代價金 | 八ヶ年半期限未 收手取有物代價 | 入金總計 |
| 開墾創業前八ヶ月 | 拾万五千圓 | | 拾万五千圓 | | | |
| 開墾創業後初一年 | 二拾万八千四百拾二圓 | | 二拾万八千四百拾二圓 | | | |
| 同 二年 | 四万七千〇二圓 | | 四万七千七百五十圓 | | | |
| 同 三年 | 四万五千五百九圓 | | 四万四千四百零圓 | | | |
| 同 四年 | 六万五千六百零九圓 | | 五万一千七百五十圓 | | | |
| 同 五年 | 二万六千六百三十四圓 | | 拾二万二千〇〇圓 | | | |
| 同 六年 | 二万六千六百三十四圓 | | 拾五万〇〇圓 | | | |
| 同 七年 | 二万六千六百三十四圓 | 拾四万二千六百拾圓 | 六拾万三千五百九圓 | 三拾二万四千二百五十四圓 | 拾壹万五千五百五圓 | 二万二千六百五圓 |
| 差引殘金 | | 拾万八千七百四十六圓 | | | | |

總計

五拾三万五千壹百九拾四 拾万一千二百五十四 拾万五千壹百七拾万六千三百。田 拾壹万五千五百五十四 全方一千六百七十五

見 解

最初ハ特ニ米國産ノ綿羊ノミヲ買入ル、見込ナリシ
ガ爾後僅カニ其一部ヲ米國ヨリ求ムル事ニ決シ餘ハ
皆之ヲ蒙古ヨリ買収セリ然ルニ當今試檢スル所ニテ
ハ蒙古産ノ綿羊ハ米國産ノ如ク多量ノ綿毛ヲ生セス
ト云因テ其所産ノ高ニ多分ノ相違ヲ生スベケレバハ
一年半ノ末期ニ於テ其益金ニモ許多ノ不足ヲ生スベ
キナリ此外昨年中獸類斃死ノ患ハアリシヨリ當場ノ
事業ニ其レガ為ノ大ニ遷延シタレハ預テハケ年半ノ
末ニ期望セシ所産ノ高ハ逆テモ九ケ年半ノ末、收テ
モ得難カルベシ右ノ情實ニ就キ方今當場ノ事務ヲ擔
任スル日本官吏ハジョーンス氏ノ意見ニ從ヒハケ年

半ノ約定期限ヲバ更ニ九ケ年半乃至十ケ年半ニ延期
セシメテ要望ス

乙号表

千八百七十五年七月ヨリ七十六年六月マテ
七月ヨリ十一月マテノ間ノ總費金取調書

| | | | | | |
|-----------|---------------------|---------|-------------------|---------|----------|
| 賞金内譯 | 十八百七十五年七月ヨリ七十六年六月マテ | 總計 | 十八百七十六年七月ヨリ同十一月マテ | 總計 | 二期合計 |
| 第一節諸雜費 | | | | | |
| ○第一雜務費用 | 百拾四十五錢 | | 三百六十四錢 | | |
| ○第二精勤者ノ賞金 | | | 三十圓 | | |
| ○第三内地旅行費 | 五圓八十錢 | | 三十圓 | | |
| ○第四役員外給料 | 拾九圓拾錢 | | 百拾四圓七錢 | | |
| 第二節役所費金 | | 百三拾七圓十錢 | | 百三拾七圓十錢 | |
| ○第一雜費 | 一千九百廿五錢 | | 六百廿四圓七錢 | | |
| ○第二運送費 | 百四拾四圓九十一錢 | | 七圓九錢 | | |
| | | | | 百三拾七圓十錢 | 六百三十二圓四錢 |

大
女

| | | | | |
|------------|--------------|----------|------------|---------|
| ○ 第三郵便及電信料 | 九拾壹圓四三錢 | | 三百零四圓三三錢 | |
| ○ 第四采着者費用 | | | 二拾五圓 | |
| ○ 第五諸雜用 | 三拾錢 | | 百五十七圓。五錢 | |
| 第三節牧羊賞金 | | 一千五百八十四錢 | | 一千五百零九錢 |
| ○ 第一諸丁給料 | 八十七圓四十九錢 | | 六千六百七十四圓三錢 | |
| ○ 第二精勤者賞金 | 四十九圓四十八錢 | | 百五十五圓五錢 | |
| ○ 第三內地旅行費 | 六百九十七圓。三錢 | | 八拾六圓拾錢 | |
| ○ 第四諸丁賃銀 | 五圓六十錢 | | 拾五圓四二錢 | |
| ○ 第五地所開墾費 | | | 三千六百廿四圓七錢 | |
| ○ 第六諸費 | 二萬五千八百八十四圓六錢 | | 三千五百廿四圓二錢 | |
| ○ 第七植付費 | | | 六千五百七十四圓三錢 | |
| ○ 第八動物買入代 | 九十四圓三三錢 | | 六千五百七十四圓三錢 | |

| | | | | |
|----------------|------------|--|-------------------------------------|--|
| ○ 第九動物餌食其外 | | | 九千五百八十四圓七錢 | |
| ○ 第十運送賃 | 八百八十五圓七錢 | | 五萬一千五百七十四圓 | |
| ○ 第十一雜費 | 六千二百廿七錢 | 三萬五千五百三十三圓 六十三錢 三萬五千五百九十六圓 六十二錢 | 三萬八千。半圓 三錢 三萬八千三百七十四圓 九十八錢 | 十七萬四千四百九十三圓 八十三錢 十七萬四千四百九十三圓 九十九錢 |
| 第四節備入外國人費用 | | | | |
| ○ 第一外國人給料 | 九千圓 | | 七千。五圓 | |
| ○ 第二同旅費 | 一千三百零三圓五錢 | | 五百圓 | |
| 第五節建物費用 | | | | |
| ○ 第一住家小舎其外建築費 | 四萬五千五百五十六錢 | 二萬。三百三十四圓 七十四錢 | 七千五百五十九圓 | 二萬七千八百九十三圓 七十四錢 |
| ○ 第二建物修復代 | 一千三百零四圓七錢 | | 三千六百四十九圓 三十錢 | 三萬三千八百零六圓 三十四錢 |
| 第六節米國及蒙古ノ綿羊輸入費 | | | | |

| | | |
|--|----------|--------------------|
| 第一 米國ニ於テ綿羊買入代(每頭) | 五圓九錢 | |
| 第二 橫濱ニテノ運送費(同) | 七圓 | |
| 第三 牧場マテ同新(同) | 拾壹錢 | |
| 第四 米國ヨリノ綿羊總費(同) | 拾三圓 | |
| 第五 蒙古ニ於テ綿羊買入代(同) | 二圓五十三錢 | |
| 第六 上海ニテノ運送費(同) | 壹圓七十七錢 | |
| 第七 橫濱マテ同新(同) | 五十錢 | |
| 第八 登戸マテ同新(同) | 拾二錢五厘 | |
| 第九 牧場マテ同新(同) | 三錢 | |
| 第十 蒙古ヨリノ綿羊總費(同) | 四圓九十三錢五厘 | |
| 第七節 生徒費金 | | |
| 第一 一人ニ於テ毎月ノ費用 <small>但し衣服其外一切</small> | 九圓四十四錢 | |
| 總計 | | 二十七圓九百二 十一圓六十八錢 |

三十八千九百二
十六錢

附録 前表中岩山氏ノ予ニ示サレタル計算ハ其總計ニ相違スル所ナルヲ以テ予直ニ其總計ノ下ニ朱墨ヲ以テ正算ノ數ヲ記入セリ

見解

第一節ヨリ第五節マテ○此諸項ニ掲ケタル費金ノ計算ハ日本官吏トジョーンス氏トノ双方ニ於テ記名保証スル所ナリ

第三節第一○此條項ハ同墾場附屬ノ日本人總員ノ給料ヲ掲ケタリ則チ書記十六人假助役十二人生徒十六人役夫百三十人内二十人ヲ六區ニ分配シ残り十人ヲ役所用ノ者トス

第三節第五〇 毎日平均ノ耕業ハ牝馬五頭ヲ用ヒ中鋤
 キニテ四反歩又九頭ヲ用ヒテ六反歩ナリ耕作ノ
 次第ハ耒耜二挺役夫六人則チ耒挺ニ付三人ツ、
 又鋤耒挺同壹人木匠壹人肥糞役夫三人播種植付
 人四人刈草者壹人既丁牧人二人肥糞運送夫一人
 使夫一人雜役一人トス但シ此員數ハ總區共皆一
 様ナルニ非ス例ハ第五區ノ如キハ現ニ二十人
 ヲリ多數ノ人ヲ役使スルト云又此定數ノ外ニ若
 干ノ生徒ヲレモ是等ハ指テ定數ノ者ノ行ヘル外
 ノ事業ニハ毎度餘分ノ人員ヲ傭入ル、一アリ現
 ニ物品買入役所ニハ九名ノ人ヲ役スルト云
 第三節第五甲〇 當開墾場ハ之レヲ六區ニ分評ス其第
 一區、開墾地百十二町則チ一千百二十反未開墾

地四百八十町都合五百九十二町第二區ハ開墾地
 三十一町未開墾地三百九十七町都合四百二十八
 町第三區ハ開墾地二十二町未開墾地二百九十八
 町都合三百二十町第四區ハ開墾地十八町未開墾
 地二百五十二町都合二百七十町第五區ハ開墾地
 八十三町未開墾地三百六十三町都合四百四十六
 町第六區ハ開墾地三十町未開墾地九百六十町都
 合九百九十町以上開墾地ノ總幅員ハ二百二十五
 町則チ五百五十町ナリ
 第三節第五乙〇 當場製作ノ物品ノ内麻割ノ馬具アリ
 一組ニ付金三圓七錢ヲ費セリト此外鞍手綱ノ類
 五(輸入ノ獸皮ヲ以テ)當場ニテ製作シ木炭ハ耕鋤
 ノ時地中ヨリ掘出シタル栗樹ノ根ヲ以テ作り十

五束ニ付壹圓ツ、ニテ賣却スルヲ得ベシ又、耒耜、
 又鋤、四輪貨車、二輪貨車、除草器、鏟、鍬、鋤、把、小又鋤、
 ヲーウエルプロ」鏟ノ「ホールスレーキ」鋤把ノ類等
 ノ如キモ皆日本工人ノ手ニテ日本物質ヲ以テ製
 造シ之ヲ桑港ニ於テ買収セシヨリ三割ノ費用ヲ
 減スト云近頃製造セシ耒耜ノ中又一大耒耜アリ
 大サ二十三「インチ」ニシテ糾草樹根及ヒ叢草ヲ鏟
 鋤スルニ用ヒ馬九頭役夫三人ヲ以テ一日毎ニ二
 アクル半ノ土地ヲ耕スニ適ス此工ヲ施スニハ米
 國産ノ馬六頭ヲ用ニ其餌食ノ穀物及ヒ蔴草ノ高
 ハ殆ト日本産ノ馬九頭ト均シ（附銀甲ヲ見ヨ）
 第三節第六〇此條項ニ掲ケタル壹万五千八百〇八圓
 六拾六錢ノ額ハ薪木、茶碗、寢床、家具、文具、書籍、蠟燭

貯計、消防具其外ノ代價ナリ

第三節第七〇當場ニ於テ僅々ノ收穫アリ其目左ノ如

| | | |
|-----|----------|----------|
| 麥 | 二万五千貫目 | 代價二百五十圓 |
| 穀物 | 二百五十五石 | 同四百五十圓 |
| 豆類 | 二千五百石 | 同八十三圓三十錢 |
| 蠶豆 | 六石 | 同二十九圓五十錢 |
| 乾草 | 拾万貫目 | 同壹千圓 |
| 玉蜀黍 | 八万三千六百貫目 | 同三百六十六圓 |
| 薩摩芋 | 五千貫目 | 同百圓 |
| 蘿蔔 | 三千一百本 | 同九十三圓 |

第三節第八〇此項ニ於テハ野馬二百頭ヲ耒耜及ヒ貨
 車ニ用ルニ馴シ又綿羊一千二百頭ヲ自然草ヲ以

テ養ハ皆能ク生育セリト云々千八百七十六年七月ヨリ同ク十一月マテノ期限ノ間ニ輸入セシ各種ノ綿羊ハ總計一千三百八十五頭馬三百八十一頭牛百二十八頭ニテ其外ニ合セラテ二十八頭(官案ノハニテ)乃至二十六頭(外看者ノ計案ニテハ)斃レタリ

第五節第二〇此項ニ於テハ事務取扱所農家馬厩小舎羊欄諸物品器械置場鍛工場等ヲ建設セリ其建物平均ノ費用左ノ如シ
小舎 但レ一坪ニ付二圓六十三錢ツ、百二十九坪

此代金三百四十圓七十三錢
但レ一坪ニ付二十六圓九十錢マ
此代金一千五百八十七圓九十四錢
但レ一坪ニ付十九圓ツ、三十五坪

此代金六百六十五圓二十六錢
但レ巨材ニテ建築シテ硝子戸トモ一坪ニ付二十一圓三十一錢マ
六十坪
附録ニテ見ヨ

第七節第一〇諸縣ヨリ招集ノ生徒六十名皆當場ニ於テ農業及ヒ牧畜ノ業ニ従事ス其給與ノ費用ハ一人ニ付毎月十二圓ツ、ト最初ニ算定セリ

附録甲 ラザハ氏云ク日本在米ノ鶴嘴鋤ヲ以テスレバ一日僅ニ一アクムルノ十六分一ノ地ヲ鋤返スノミナルベシト當時開墾場ニ備役スル農夫ハ新造二十三インチノ耒耜ヲ用ヒ又刈地器械ヲモ使用スルガ故ニ從來日本器械ヲ以テ一アクムルノ四分一ノ地ヲ耕ヒシモ今ハ一

日二十「ア」ルノ草ヲ刈除スルニ至レリ。
 附録乙 當場ノ建物ハ、一切日本風ヲ用ヒズ故ニ其費
 用ニ常日ヨリハ貴シ

丙号表

| 岩山氏原預算 | | ジョーンス氏改正預算 | |
|---|------------------------|--|------------------------|
| 内 | 譯 | 内 | 譯 |
| 甲 | 最初十八ヶ月間 地所一千五百「ア」クル | 甲 | 最初十八ヶ月間 地所一千五百「ア」クル |
| 第一、十八ヶ月間農夫五十人 傭入レ賃銀但レ一人毎 一ヶ月九拾三圓マ | 七千二百圓 | 第一、役夫百人一人毎毎月六圓 マノ賃銀ナリ然レ役夫ノ 数ヲ前以テ定メ甚タ難ク 列ヘハ獸類ノ耕業ニ馴ル、 迄ノ間一組三人マ都合二十 組ノ役夫ヲ使用スベシトスル ニ自然地所ニ掃除スベキ最 蘇樹根ノ多少アルガ故ニ 従テ之ヲ耕鋤スルノ役夫ニ | 金高 |

| | | | |
|----------------------------|---------|---|---------|
| 第一 農牛百頭買入レ代但シ | 五千元 | 第二 農牛百頭買入レ代 | 壹万八千元 |
| 第三 農馬二拾頭買入レ代但シ | 十元 | 第三 農馬ハ拾頭ニテ不足 | 五百元 |
| 第四 十八ヶ月間牛二百二十頭ノ飼食代但シ一ヶ月六圓マ | 壹万二千九百圓 | 第四 最初十二月ノ後元テ牛馬ノ所食ハ當場ニ於テ産スベシ | 七千九百圓 |
| 第五 草種買入レ代但シ一「アクル」ニ付五圓ツ | 七千五百圓 | 第五 原預算ニハ開墾地野ニ小麥其外播種ノ費用ヲ載セス蓋シ牧草植付地ニ肥料ヲ充分ニ含メレムルハ先ツ初メニ小麦ヲ播種スルヲ要ス | 七千五百圓 |
| 第六 臨時費 | 六千三百二十圓 | 第六 臨時費并ニ種代 | 八千六百二十圓 |
| 合計金三万九千九百八十圓 | | 合計金四万〇五百四拾圓 | |
| 第一 地所三千七百五十「アクル」 | | 第一 地所買上ケ代但シ此項ニ於テ | |
| 此外二千七百五十「アクル」官有地 | 一万五千五百圓 | 教諾ヲ添ヘタリ云ノ此金 | |

大 政 信

| | | | |
|----------------------------|---------|---|---------|
| 第一 地所三千七百五十「アクル」 | | 第一 地所買上ケ代但シ此項ニ於テ | |
| 此外二千七百五十「アクル」官有地 | 一万五千五百圓 | 教諾ヲ添ヘタリ云ノ此金 | |
| 第二 解 | | | |
| 第六 臨時費 | 六千三百二十圓 | 第六 臨時費并ニ種代 | 八千六百二十圓 |
| 合計金三万九千九百八十圓 | | 合計金四万〇五百四拾圓 | |
| 第四 十八ヶ月間牛二百二十頭ノ飼食代但シ一ヶ月六圓マ | 壹万二千九百圓 | 第四 最初十二月ノ後元テ牛馬ノ所食ハ當場ニ於テ産スベシ | 七千九百圓 |
| 第五 草種買入レ代但シ一「アクル」ニ付五圓ツ | 七千五百圓 | 第五 原預算ニハ開墾地野ニ小麥其外播種ノ費用ヲ載セス蓋シ牧草植付地ニ肥料ヲ充分ニ含メレムルハ先ツ初メニ小麦ヲ播種スルヲ要ス | 七千五百圓 |
| 第六 臨時費 | 六千三百二十圓 | 第六 臨時費并ニ種代 | 八千六百二十圓 |
| 合計金三万九千九百八十圓 | | 合計金四万〇五百四拾圓 | |

| | | | |
|---|-------|---------------------------------|-------|
| 高使用ニ付テハ必ス臨時ノ條 件ニ起ルベケレバ此ニ餘分 ノ高ヲ算入セリト | 壹万八千圓 | 第二、建物費金 | 壹万八千圓 |
| 製作スルヲ得ベケレバ此預 算ハ半減ナルベシ | 壹万八千圓 | 第三、農具買入レ代 | 壹万圓 |
| 第四、管長花ニ教師給料 | 九千圓 | 第四、十八ヶ月間外国人牧羊方 給料但レ一ヶ月五百圓マ | 九千圓 |
| 第五、管長花ニ教師助役給 料 | 四千五百圓 | 第五、十八ヶ月間外国人助役 給料但レ一ヶ月二百五十圓マ | 四千五百圓 |
| 第六、外国人牧羊人ノ給料但レ助役 ハ最モ其任ニ適メシ人ニ | 四千五百圓 | 第六、十八ヶ月間外国人牧羊人給 料但レ一ヶ月五百五十圓マ | 四千五百圓 |

| | | | |
|--------------------------------|---|-------------------------|------------------------------|
| 故相当ノ牧羊人モ一ヶ年千 二百圓ノ給料ニテ充分ナルベシ | 一千八百圓 | 第七、文具並ニ外費金 | 二千圓 |
| 合計金五万五千五百二十五圓 | 二千圓 | 第七、文具並ニ外費金 | 二千圓 |
| 總計十八ヶ月間費金九万六千。六十五圓 | 合計金六万一千四百二十五圓 | 總計十八ヶ月間費金拾万一千四百。五圓 | 合計金六万一千四百二十五圓 |
| 乙 十八ヶ月後初一年間 地所三千アクリル | 第一、牡羊買入レ代但レ牡羊二百 頭有用ナルハ相違ナク且 之ヲ買入レ当地ニ輸入スル 時ハ上書ノ預算モ決シテ 過大ナルニ非サレドモ若シ 牡羊二百頭ヲ加利福尼ニ テ買入レ同啖ニ於テ直ニ | 乙 十八ヶ月後初一年間 地所三千アクリル | 第一、牡羊良種三百頭買入レ代但 一頭ニ付百五十圓マ |

| | | |
|--|---------|---------|
| 良種ノ牡羊ニ葦尾セシメ 而シテ其北羊ヲ当地ニ持 歸ラバ牡羊二百頭ハ必要ノ 時分当地ニ於テ産生ス ベク左スレハ五千円ノ額ニ テ北羊ノ買入レ運送飼 料方トモ充分ナルベシ | | 六千圓 |
| 第二、加利福尼亞ニ於テ綿羊一 万頭買入レ代 | 六万圓 | 六万圓 |
| 第三、加利福尼亞ヨリ日本ニテノ 運送費(但レ買入レ代運 送費トモ現今ノ時價ニ テ計算シメド時ニ因テ) | | |
| 第四、米國ヨリ日本ニテノ運 送費(但レ買入レ代運 送費トモ現今ノ時價ニ テ計算シメド時ニ因テ) | 六万一千二百圓 | 六万一千二百圓 |
| 合計金拾三万一千二百圓 | | |

| | | |
|--|---------|---------|
| 第四、米國ヨリ横濱ニテノ運送 費(但レ買入レ代運送 費トモ現今ノ時價ニ テ計算シメド時ニ因テ) | 一万二千圓 | 五千圓 |
| 高下アルベシ | | 六万一千二百圓 |
| 合計金拾六万一千四百圓 | | |
| 第二、解 | | |
| 第一、農夫五十名賃銀但シモ 人ニ付一ヶ年九拾六円マ | | 七千八百圓 |
| 第二、農馬百二十頭飼畜入 費但シモ每頭一ヶ月六円マ | 八千六百四十圓 | |
| 第二、農獸飼畜入費但シモ此項ノ 計算ヲ用フル時分ニハ 既ニ場内ニテ諸ノ食物ヲ産 スベケレバ此ニ此金額ヲ要ス | | |
| 第三、草種代 | | 七千五百圓 |
| 第三、一、種買入レ代但シモ 二千五百圓マ | 七千五百圓 | |

| | | | |
|------------------|---------|--------------------|---------|
| 第四、臨時費 | 四千五百十五圓 | 第四、臨時費 | 四千五百十五圓 |
| 第五、飼牧羊方長其外給料 | 六千圓 | 第五、外國官吏ノ給料但シ第七、 | |
| 第六、外國人助役其外給料 | 三千圓 | 第六、一千二百圓ヲ其餘ハ岩山 | 一万二百圓 |
| 第七、外國牧人其外給料 | 一千八百圓 | 第七、氏ノ計算ト同シ | |
| 第八、農具修復代長ニ當場 | | 第八、 | 二千圓 |
| 有用ノ諸品代 | 三千圓 | 第九、牡羊餌食ノ代但シ當時ニ | |
| 第九、牡羊二百頭ノ餌食撞碎 | | 於テ諸獸類ノ食物ハ當場 | |
| タレ小麦ノ代價但シ一石三日 | | ニ産出スベケレバ此此類ヲ | |
| ニテ一日ニ付三斗マツテ貴消 | | 要セス | |
| スルモノトス | 六百零七圓 | 合計金三万一千百十五圓 | |
| 合計金三万九千八百十二圓 | | 合計金三万一千百十五圓 | |
| 總計初一年間費金二拾万一千〇八圓 | | 總計初一年間費金拾六万二千三百拾五圓 | |
| 丙 第一、二年間 | | 丙 第一、二年間 | |
| 地所四千二百アケ | | 地所四千五百アケ | |

| | | | |
|-----------------|---------|------------------|---------|
| 第一、農夫五十名ノ賃銀但シ一人 | | 第一、役夫百名ノ賃銀 | 七十二百圓 |
| ニ付一ヶ年九十六圓 | | 第二、農獸飼畜入費 | |
| 第二、農獸飼畜入費但シ頭 | | ニ付毎月十六圓 | 八千六百四十圓 |
| 第三、草種其外買入レ代 | 七千五百圓 | 第三、當時草種ハ當場ニ産スベシ | |
| 第四、臨時費 | 四千二百十五圓 | 第四、臨時費 | 四千二百十五圓 |
| 第五、外國人牧羊方長給料 | 六千圓 | 第五、第七、八、一千二百圓ニテ其 | |
| 第六、外國人助役給料 | 三千圓 | 第六、餘ハ岩山ノ計算ト同シ | |
| 第七、外國牧人給料 | 一千八百圓 | 第七、合計 | 一万二百圓 |
| 第八、農具修復代長ニ有用品代 | 三千圓 | 第八、農具 | 三千圓 |
| 第九、牡羊四百頭ノ餌食代但 | | 第九、當場ニ於テ産スベシ | |
| 撞碎タレ小麦二百十九 | | 第九、二、場内地所區分ノ堤防費 | |
| 石一石ニ付三圓マツテ又一頭 | | ハ岩山氏ノ計算中ニ載セス | |

| | | | |
|-------------------|-------------------|----|---------|
| 二日一日三合ワ、ヲ用ユ | 六百五十七圓 | 此金 | 五千圓 |
| 羊ニ於テ甲号綿羊 | | | |
| ノ産ハ所乙牡羊仔五千頭 | | | |
| 乙牝羊仔五千頭ニシテ | | | |
| 甲乙合計二万二百頭ナ | | | |
| ルベシ | | | |
| 總計第二年間費金三万九千六百十二圓 | 總計第二年間費金二万九千六十五圓 | | |
| 丁 第三年間 地所六千アケル | 丁 第三年間 地所六千アケル | | |
| 第一、農夫五十名ノ賃銀 | 第一、農夫百名ノ賃銀 | | 七千二百圓 |
| 第二、牛馬飼、畜入費 | 第二、 | | |
| 第三、之租買入代 | 第三、 | | |
| 第四、臨時費 | 第四、臨時費 | | 四千二百十五圓 |
| 第五、外國人牧羊方又給料 | 第五、第七、八、一千二百圓ニテ其 | | |

| | | | |
|-------------------|-------------------|------------------|--------|
| 第六、同助役給料 | 三千圓 | 第六、餘ハ岩山氏ノ計算 | |
| 第七、同牧人給料 | 一千八百圓 | 第七、同シ合計 | 一万〇二百圓 |
| 第八、農具費 | 三千圓 | 第八、農具費 | 三千圓 |
| 第九、牡羊四百頭飼畜費 | 一千三百十四圓 | 第九、食物ハ畜場ニ於テ産スベシ | |
| | | 第九ノ二、堤防費(岩山氏ノ計算) | 三千圓 |
| 此羊ニ於テ甲号綿羊 | | ニ載セス | |
| ノ産ハ所丙牡羊仔五千 | | | |
| 頭丙牝羊仔五千頭ニシ | | | |
| テ甲乙丙合計二千五百 | | | |
| 四十頭ナルベシ | | | |
| 總計、三年間費金四万〇二百六十九圓 | 總計第三年間費金二万七千六百十五圓 | | |
| 第三年間ノ入金 | | | |

全壹万九千二百圓

乙丙号牡羊四千八百頭賣种代

但レ一頭三百三圓四ツ

全貳万五千二百五十圓

甲乙号ノ羊毛十万一千ポンド

賣拂代但レ一ポンド三百二十五錢

總計入金

全四万四千四百五拾圓

戊

第四年間
地町七千五百円

第一、農夫五十名ノ賃銀前年通

四千八百圓

第一、役夫百名ノ賃銀

七千二百圓

第二、牛ノ飼畜費同

八千六百圓

第二

第三、草種買入代同

七千五百圓

第三

第四、臨時費同

四千二百十五圓

第四、臨時費

四千二百十五圓

第五、外國人牧羊一長給料同

六千圓

第五

第六、同助役給料同

三千圓

第六、二口合セテ

九千圓

第七、同給料同

一千八百圓

第七、外國人ハ尔後用ルニ及ハズ

第八、農具費同

三千圓

第八、農具修復代

一千圓

第九、牡羊罾頭飼畜入費同

一千三百十四圓

第九

第九、二堤防費岩山以テ計算

三十一圓

此年ニ於テ甲乙綿羊ノ

産ハ町丁牡羊仔七千五

百頭丁牝羊仔七千五百

頭ニシテ甲乙丙丁合計

一千五百四十頭ナルベシ

總計第三年間賞金四万二千六百六十九圓

總計第四年間賞金二万四千四百十五圓

第四年間入金

五貳万圓

丙号牡羊五千頭賣拂代但シ

一頭ニ付三圓々

金三万一千七百五十圓

甲乙丙号ノ羊毛十二万七千ポンド

賣拂代但シ一ポンドニ付二十

二錢ツ、

總計入金

金五万一千七百五十圓

二 第五年間

已 第五年間

第一、外國人牧羊方長給料

六千圓

第一、

第二、外國人助役給料

三千圓

第二、二口合セラ

九千圓

第三、同牧人給料

一千八百圓

第三、傭ヲ止ム

第四、農夫五十名ノ賃銀

四千八百圓

第四、役夫百名ノ賃銀

七千二百圓

第五、牛馬飼畜入費

四千三百五十圓

第五、

第六、農具費

三千圓

第六、

第七、牡羊留頭飼畜入費

一千三百四十圓

第七、

第七ノ二、臨時費

二千圓

此年ニ於テ甲乙丙号

綿羊ノ産ム所丙号牡

羊仔一万頭丙号北羊

仔壹万頭ニシテ甲乙

丙号合計四万〇四百頭

計六八

總計第五年間費金二万四千二百三十四圓

總計第五年間費金壹万八千貳百圓

第五年間入金

金三万圓

丁号牡羊七千五百頭賣拂代

但シ壹頭ニ付四圓

金四万五千圓

丁号牝羊七千五百頭賣拂代

但シ壹頭ニ付四圓

金四万四千二百五十圓

甲乙丙丁号羊毛七万七千ポンド

賣拂代但シ一ポンドニ付廿五錢

金二千五百圓

地所開墾落成ニ付不用ノ農

牛五十頭賣拂代但シ壹頭ニ付

五十圓

金貳百五十圓

農馬十頭賣拂代但シ壹頭

ニ付二十五圓

總計入金

金拾貳万二千圓

庚 第六年間

第一、外国人牧羊方長給料

第二、同助役給料

第三、同牧人給料

第四、農夫五十名賃銀

第五、牛馬飼畜入費

第六、農具費

六千圓

三千圓

一千八百圓

四千八百圓

三千圓

三千圓

第一、

第二、二口合セテ

第三、傭人止ム

第四、役夫百名ノ賃銀

第五、

第六、農具修復其外

九千圓

七千二百圓

一千圓

第七、牡羊四百頭飼畜費

一千三百四十四圓

第七、一

第七、二、臨時費、毛錶、剪法、毛

包、堤防修理、等

五千圓

此羊ニ於テ甲乙丙号綿

羊ノ産ム所ニ号牡羊仔

壹万頭已号牝羊仔壹

万頭ニシテ甲乙丙已合

計四万、四百頭ナルベシ

統計第六年、間費金二万四千二百三十四圓

統計第六年、間費金二万二千二百圓

第六年、間入金

金四万圓

戊号、牝羊壹万頭賣拂代租シ

壹頭ニ付四圓ツ、

金六万圓

戊号、牝羊壹万頭賣拂代租シ

壹頭ニ付六圓ツ、

金五万圓

甲乙丙戊号ノ羊毛二十万二千

ポンド賣拂代租シ、ポンドニ付セ

五錢ツ、

統計入金

金拾五万、五百圓

辛 第七年、間

第一、外国人牧羊方長給料

六千圓

第一、

第二、同助役給料

三千圓

第二、二口合ニテ

第三、同牧人給料

一千八百圓

第三、終止

九千圓

辛 第七年、間

| | | | |
|--------------------|--------|-----------------|-------|
| 第四、農夫五十名賃銀 | 四千八百圓 | 第四、役夫百名、賃銀 | 七十二百圓 |
| 第五、牛馬飼畜費 | 四百三十圓 | 第五、 | |
| 第六、農具費 | 三千圓 | 第六、農具費 | 一千五百圓 |
| 第七、牡羊四百頭飼畜入費 | 一千三百五圓 | 第七、一 | |
| 此羊ニ於テ甲乙丙号 | | 第七、二、臨時費其外 | 六千圓 |
| 綿羊ノ産ム所庚号 | | 第六年 | |
| 牡羊仔壹万頭庚北羊 | | 同 | |
| 仔壹万頭ナルベシ | | | |
| 總計第七年間賃金二万四千二百三十四圓 | | 總計第七年間賃金二万三千七百圓 | |
| 第七年間入金 | | | |
| 金二万五千圓 | | | |
| 農牛五十頭賣拂代但シ壹頭 | | | |

| | | | |
|---------------|--|--|--|
| 三百五十圓 | | | |
| 金二百五十圓 | | | |
| 農馬十頭賣拂代但シ壹頭ニ | | | |
| 二百二十五圓 | | | |
| 金壹万六千圓 | | | |
| 甲乙号牡羊四百頭賣拂代但シ | | | |
| 壹頭ニ廿四圓 | | | |
| 金六万圓 | | | |
| 甲号北羊壹万頭賣拂代但シ | | | |
| 壹頭ニ廿六圓 | | | |
| 金六万圓 | | | |
| 乙丙号北羊壹万頭賣拂代 | | | |
| 但シ壹頭ニ廿六圓 | | | |

金四万圓

己号牡羊壹万頭賣拂代但レ

壹頭ニ付四圓ツ、

金六万圓

己号牝羊壹万頭賣拂代但レ

壹頭ニ付六圓ツ、

金二万圓

庚号一歳ノ牡羊壹万頭賣拂

代但レ壹頭ニ付二圓ツ、

金三万圓

庚号一歳ノ牝羊壹万頭賣拂

代但レ一頭ニ付三圓ツ、

金五万五千圓

甲乙内己号ノ羊毛二十万二千
千ポンド賣拂代但レ壹ポンド
二百二十五錢ツ、

總計入金

金三拾二万四千八百五十圓

壬

總入金

金七拾万六千三百圓

内獸類斃死損害等ノ為メニ

割ヲ差引ク

残金五拾六万五千〇四拾圓

閑墾地町七十五百ノ賣拂代但レ

壹及ニ付二圓ツ、

壬ノ甲

此金六万〇九百圓

官有建物其外諸住家賣拂代但し

原價ノ二割

此金三千六百圓

農具賣拂代

金貳十圓

總計入金

金六拾三万一千五百四拾圓

内

總費金四拾九万五千二百六十九圓

總計費金四拾万三千九百二十九圓

差引残リ純益總計

金拾三万六千三百七十壹圓

(後ニ續ク)

シヨーンズ 氏改正預算

各年入金仕訳明細書

全ノ乙

| 期限 | 小麦ノ高 | 小麦ノ價 | 小麦代價 | 割羊賣却額 | 一頭ノ價 | 割羊賣却價 | 羊毛ノ高 | 羊毛ノ價 | 羊毛代價 | 入金總計 |
|-------|-----------|------|---------|-------|------|---------|-------|------|---------|----------|
| 初十ヶ月 | 百千六方斤 | 一錢三 | 一万六千八百圓 | | | | 二千斤 | 二十五錢 | 五百圓 | 一万七千三百圓 |
| 第一年 | 百千六方斤 | 同 | 一万六千八百圓 | | | | 四千斤 | 同 | 一千圓 | 一万八千三百圓 |
| 第二年 | 百千六方斤 | 同 | 一万六千八百圓 | | | | 八万五千斤 | 同 | 一万三千五百圓 | 三万八千〇五圓 |
| 第三年 | 百千六方斤 | 同 | 一万六千八百圓 | 五十二百頭 | 四圓 | 二万八千四百圓 | 十方七千斤 | 同 | 一万九千三百圓 | 七万九千三百十圓 |
| 第四年 | 百千六方斤 | 同 | 一万六千八百圓 | 五十二百頭 | 同 | 二万八千四百圓 | 十方九千斤 | 同 | 一万九千三百圓 | 九万二千三百十圓 |
| 第五年 | | | | 七十八百頭 | 同 | 三万五千五百圓 | 二万九千斤 | 同 | 七千三百圓 | 拾万四千七百十圓 |
| 第六年 | | | | 一万五千頭 | 同 | 一万五千圓 | 二万九千斤 | 同 | 九千三百圓 | 拾万四千七百十圓 |
| 第七年 | | | | 一万五千頭 | 同 | 一万五千圓 | 二万九千斤 | 同 | 九千三百圓 | 拾万四千七百十圓 |
| 總計八ヶ年 | 六百三十三方一錢三 | | 八万四千圓 | 四百頭 | 四圓 | 七万五千圓 | 四万三千斤 | 二十五錢 | 四万四千圓 | 六十八万〇拾二圓 |

入金六拾八万〇〇拾二圓

二 割損失高金拾七万〇〇〇三圓
差引列

金五拾五万四千〇〇九圓四十錢

七西

八ヶ年末期ニ於テ財產總代價預算

| | | | |
|----------|----------|----|-------|
| 一歲ノ北羊ノ數 | 壹万三千百五十頭 | 四圓 | |
| 一頭ノ價 | | | 五万五千圓 |
| 一歲北羊ノ總代價 | | | |
| 北羊ノ數 | 三万七千五百頭 | 四圓 | |
| 一頭ノ價 | | | 拾五万圓 |
| 北羊總代價 | | | |
| 羊仔ノ數 | 三万七千五百頭 | | |

| | | | |
|---------|----------------|-----|---------|
| 一頭ノ價 | | 二圓 | 七万五千圓 |
| 羊仔總代價 | | | |
| 道具類ノ價 | | | 五千圓 |
| 牛ノ數 | 百頭 | | |
| 一頭ノ價 | | 五十圓 | |
| 牛ノ總代價 | | | 五千元圓 |
| 開墾地所ノ代價 | | | 貳拾二万五千圓 |
| 總計代價 | | | 五拾壹万五千圓 |
| 各羊入金ノ總額 | 金五拾五万四千〇〇九圓四十錢 | | |
| 財產ノ總代價 | 金五拾壹万五千圓 | | |

一 合入金總計

五百〇六万九千〇〇九圓四十錢

内 各羊ノ費金總計

一四合万三千九百二十五

差引純益金 金六拾六万六千八百四圓四拾錢

西官

